

2023年度 未来教室科目 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A0011】ジェンダーと法Ⅰ [谷田川 知恵] 春学期授業/Spring	1
【A0012】ジェンダーと法Ⅱ [谷田川 知恵] 秋学期授業/Fall	3
【A0048】消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	5
【A0049】消費者法Ⅱ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	7
【A0090】労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	9
【A0091】労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	11
【A0092】労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	13
【A0093】労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	15
【A0249】ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	17
【A0520】都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring	19
【A0521】まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	20
【A0733】平和・軍事研究Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall	22
【A0777】平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring	23
【A0786】現代政策学特講Ⅰ (千代田区) [杉崎 和久] オータムセッション/Autumn Session	24
【A0898】アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring	25
【A0899】アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall	26
【A3482】文化地理学(1) [村田 陽平] 春学期授業/Spring	27
【A3483】文化地理学(2) [村田 陽平] 秋学期授業/Fall	28
特殊講義 【A5410】寄附講座・資本市場の役割と証券投資 [原 宏敏] 秋学期授業/Fall	29
【A6216】Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	31
【A6245】Foundations of Finance [Karen Lai Kai Lin] 秋学期授業/Fall	32
【A6291】International Security [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	33
【A6319】Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	34
【A6537】Race, Class and Gender I: Concepts & Issues [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	35
【A6540】International Security [Takeshi Yuzawa] 春学期授業/Spring	36
【A6541】Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki HIRAMORI] 春学期授業/Spring	37
【A9809】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	38
【A9810】キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	40
【A9811】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	43
【A9812】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	45
【A9813】キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	47
【A9814】キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	49
【A9815】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	51
【A9816】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	53
【A9817】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	55
【A9818】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	57
【A9819】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	59
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3717】減災工学(2019年度以降入学生) [藤村 和也、山崎 文雄、吉見 雅行、室野 剛隆、矢部 正明、鈴置 真央、田村 匡弘、永野 正千、中村 圭吾、野村 文彦、橋本 翼、松山 芳士、渡邊 佑輔] 年間授業/Yearly	61
【C0243】平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	63
【C1000】比較表象文化論 [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	64
【C1056】国際関係研究Ⅳ [石森 大知] 秋学期授業/Fall	65
【C2201】現代社会論Ⅱ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	66
【C2202】現代社会論Ⅲ [佐伯 英子] 秋学期授業/Fall	67

【C2227】 災害政策論 [中川 和之] 春学期授業/Spring	68
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7258】 産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	71
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7259】 キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	72
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7270】 アントレプレナーシップ論Ⅰ [松本 真尚] 春学期授業/Spring	73
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7271】 アントレプレナーシップ論Ⅱ [松本 真尚] 秋学期授業/Fall ..	75
関連科目 【C7710】 就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [佐藤 厚、武石 恵美子] 秋学期授業/Fall ..	77
関連科目 【C7711】 就業応用力養成Ⅰ [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	79
関連科目 【C7712】 就業応用力養成Ⅱ [鈴木 美伸] 秋学期授業/Fall	81
学部共通科目 【H7042】 食品科学 [三浦 豊] 春学期授業/Spring	83
【K6066】 金融論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	84
【K6067】 金融論A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	85
【K6068】 金融論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	86
【K6069】 金融論B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	87
【K6108】 現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	88
【K6109】 現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	89
【K6150】 国際関係論A [藤田 吾郎] 春学期授業/Spring	90
【K6151】 国際関係論B [藤田 吾郎] 秋学期授業/Fall	91
【K6314】 地球環境論A [吉田 圭一郎] 春学期授業/Spring	92
【K6315】 地球環境論B [吉田 圭一郎] 秋学期授業/Fall	93
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall	94
【N1155・N6155】 NPO論 [渡真利 紘一] 春学期授業/Spring	95
【N1159】 災害支援論 [青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄] 春学期授業/Spring	96
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目 等) 【Q0621】 リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ: 渡辺昭太、 講師 (ゲストスピーカー): イオンフィ ナンシャルサービスグループ] 春学期授業/Spring	97
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2323】 経済学L A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	98
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2324】 経済学L B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	100
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6301】 自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美 雄] 春学期授業/Spring	102
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6302】 自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美 雄] 秋学期授業/Fall	104
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学A [西村 一帆] 春学期授 業/Spring	106
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学B [西村 一帆] 秋学期授 業/Fall	107
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授 業/Spring	109
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授 業/Fall	111
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学A [白井 隆長] 春学期授 業/Spring	113
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学B [白井 隆長] 秋学期授 業/Fall	115
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学A [朝比奈 茂] 春学期授 業/Spring	117
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学B [朝比奈 茂] 秋学期授 業/Fall	119
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学A [佐藤 優希] 春学期授 業/Spring	121
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学B [佐藤 優希] 秋学期授 業/Fall	123
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学A [吉田 康伸] 春学期授 業/Spring	125
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学B [吉田 康伸] 秋学期授 業/Fall	126

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授 業/Spring	127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授 業/Spring	131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授 業/Spring	133
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_300 番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授 業/Fall	135

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第 2 波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲示する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の 7 割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。

3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。

4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界

2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法で何を学ぶのか、全体像の把握
3	ジェンダーをめぐる法の歴史 1	欧米を中心にした女性の権利の歴史
4	ジェンダーをめぐる法の歴史 2	日本における女性の権利の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	ポジティブ・アクション（PA）、アファーマティブ・アクション（AA）	事実上の平等を進めるための装置 AA/PA の歴史と種類、効果
7	S O G I（性的指向と性自認）1	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の現状
8	S O G I（性的指向と性自認）2	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々（LGBTQ+）の権利保障
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条例
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法
11	家族とジェンダーと法 1	多様な家族と現行法
12	家族とジェンダーと法 2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法 3	少子化と家族制度のこれから
14	まとめ	これまでの学びから、性差別が続くのはなぜか、どのような変化が必要かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること、そして掲示板での問題提起・議論を可能な範囲で行うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れたため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとキャラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：※定員制（受講者多数のため 4/20（木）13 時時点の仮登録者のみ履修可とする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第 2 波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。
2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけでなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一様ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。
2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。
3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。
1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の 7 割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。
2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。
3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。
4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。
5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて
3	労働とジェンダーと法	均等法ができる前：結婚解雇、近年差別
4	労働とジェンダーと法	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法	間接差別、アンパイドワーク
6	暴力とジェンダーと法	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法	デート DV
9	暴力とジェンダーと法	性暴力をめぐる神話
10	暴力とジェンダーと法	世界的な性暴力法改革
11	暴力とジェンダーと法	セクシュアル・ハラスメント、ストーカー、
12	暴力とジェンダーと法	買売春、ポルノグラフィー
13	生殖とジェンダーと法	リプロダクティブライツ
14	まとめ	女性に対する暴力と男性被害

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html> 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW300AB

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪徳商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。

学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。

消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。

契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。

受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者法とは何か	消費者・事業者概念、消費者基本法
第 2 回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失
第 3 回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺
第 4 回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法 4 条など
第 5 回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法 4 条など

第 6 回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引
第 7 回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その 1	民法による不当条項規制、約款論
第 8 回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その 2	消費者契約法 8 条～10 条
第 9 回	消費者契約の内容の適正化④履行段階	信義則の役割、契約の解釈
第 10 回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要
第 11 回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、過量販売規制など
第 12 回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続
第 13 回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	名義貸し、預金トラブル
第 14 回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）

河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）

大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるといふ姿勢である。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講生がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者取引の対象①物	民法の規定との関係の品質
第 2 回	消費者取引の対象②物	製造物責任①の安全性（1）
第 3 回	消費者取引の対象③物	製造物責任の安全性（2）
第 4 回	消費者取引の対象④品	食品衛生法など
第 5 回	消費者取引の対象⑤	品質・安全性に関する行政規制
第 6 回	消費者取引の対象⑥	民法の規定・特定商取引法
第 7 回	消費者取引・各論①悪徳商法	サービス契約論
第 8 回	消費者取引・各論②金融商品	悪徳商法の各類型についての説明
第 9 回	消費者取引・各論③建築取引	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法
第 10 回	消費者取引・各論④電子商取引	建築トラブルをめぐる民事判例
第 11 回	消費者保護制度論①行政機関の役割	電子商取引をめぐる民事判例および特別法
第 12 回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その	消費者庁、国民生活センターの役割

第 11 回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その	ADR 制度、消費者団体訴訟
第 12 回	消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その	集団的消費者被害救済について
第 13 回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係、景品表示法について
第 14 回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）

河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）

大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。

・消費者法Ⅰを受講済みであるのが望ましい。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達は「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487 号（2021 年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn consumer law, especially, the safety and the the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようとするさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、連続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回はオンライン授業です（法学部共通）
- ・第 2 回以降対面での講義を実施します。感染状況によりオンラインとする場合には授業内で連絡します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第 2 回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合／過半数代表者／労働法の法源
第 3 回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第 4 回	レポート課題にむけて	法的三段論法の記述方法
第 5 回	労働契約規制 (1)	本体的権利義務／人格権論
第 6 回	労働契約規制 (2)	付随義務論
第 7 回	労働契約規制 (3)	労働契約の解釈・現代的課題
第 8 回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間

第 9 回	労働契約の終了 (1)	合意解約と辞職／定年／解雇制限
第 10 回	労働契約の終了 (2)	解雇権濫用法理
第 11 回	労働契約の終了 (3)	整理解雇法理／労働契約・労使慣行／労働条件の決定 (1) 行
第 12 回	労働条件の決定 (2)	就業規則と労働契約法
第 13 回	労働条件の決定 (3)	就業規則の不利益変更
第 14 回	労働紛争の実態	労働紛争の実態を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どういう事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020）

【参考書】

- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（有斐閣、2014 年）
- ・『デリー六法 令和 4 年版』（三省堂、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[中間テスト] 2 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
- ・[期末テスト] 5 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス感染症対応】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようとするさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、できるだけ連続して受講することを勧めます。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方と方法 / Method(s)】

- ・対面での講義を予定していますが、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進捗は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本的雇用と労働条件
第 2 回	賃金 (1)	労働基準法と賃金／最低賃金法
第 3 回	賃金 (2)	賞与／退職金／休業手当
第 4 回	労働時間 (1)	労働時間の定義／休憩・休日
第 5 回	労働時間 (2)	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第 6 回	労働時間 (3)	弾力的な労働時間制度
第 7 回	労働時間 (4)	裁量労働制／労働時間法制の適用除外

第 8 回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第 9 回	映像で学ぶ労働法	中間のまとめ／労働法に関する映像学習
第 10 回	人事制度 (1)	配転／出向、転籍
第 11 回	人事制度 (2)	昇・降格／企業再編
第 12 回	懲戒	企業秩序論／懲戒処分の根拠と限界
第 13 回	労災	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険／労災民訴
第 14 回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）

【参考書】

村中学史・荒木尚志『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2023 年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

着任初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス感染症対応】

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008 年 3 月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3 で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（4 月 11 火）で Zoom にて行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第 2 回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第 3 回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第 4 回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第 5 回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第 6 回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について

第 7 回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第 8 回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第 9 回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第 10 回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第 11 回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第 12 回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第 13 回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第 14 回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web 小テスト（20 点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 20 点満点に換算して評価します。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報 1903 = 1904 号、2018 年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌 129 号、2017 年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林 113 号、2016 年）、（共著）「労働契約法 20 条の研究」（労働法律旬報 1853 号、2015 年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障 1645 号、2015 年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（9 月 26（火））で Zoom にて行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

- ・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。
- ・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。
- ・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	・ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守るための手段について
第 2 回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第 3 回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について

第 4 回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第 5 回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第 6 回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第 7 回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第 8 回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第 9 回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第 10 回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第 11 回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第 12 回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第 13 回	休暇	年次有給休暇等について
第 14 回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web 小テスト（20 点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 20 点満点に換算して評価します。
 - ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報 1903 = 1904 号、2018 年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌 129 号、2017 年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林 113 号、2016 年）、（共著）「労働契約法 20 条の研究」（労働法律旬報 1853 号、2015 年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障 1645 号、2015 年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

POL200AC

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だといっても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちでは様々な社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？ ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 家族とは何か、家族の変化について説明する。多様性を認める方向の中で夫婦別姓や同性婚に関する動向についても考察する。
第4回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。 ここでは性別役割分業について理解する。 現在、議論が進んでいる「異次元の子育て支援」についても考察する。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第8回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉えるためにはどうすべきかを考える。

第 11 回 政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第 12 回 国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。
第 13 回 国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第 14 回 授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

- ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書 2023 年）
- ・前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019 年）
- ・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
- ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://www.cao.go.jp/wlb/index.html>
- ・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
- NWEC 実践研究第 9 号「ジェンダーに基づく暴力」
- ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
- ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
- ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
- ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
- ・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持てられるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第2回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第3回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第4回	都市施設1	都市施設の概要、道路
第5回	都市施設2	公園緑地
第6回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第7回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第8回	地域特性に相応しい土地利用規制1	補助的地域地区、地区計画
第9回	地域特性に相応しい土地利用規制2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第10回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第11回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第12回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第13回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第14回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が9回未満（全14回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- ・「①授業ごとに出題する課題」の評価は下記になる。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
- なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- ・「②レポート課題」について
出題は、6月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
- ・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. Understanding the system that controls the formation of urban space

B. Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class (70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
- 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第2回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第3回	防災まちづくり1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第4回	防災まちづくり2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第5回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第6回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第7回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第8回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第9回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第10回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第11回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

第12回	草の根まちづくり概論	地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。
第13回	草の根まちづくりの事例1	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。
第14回	草の根まちづくりの事例2	地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が9回未満（全14回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- ・「①授業ごとに出席する課題」のについて
 - ・評価は下記とする。
 - A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
 - B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
 - C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
 - D：未記入

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

・「②レポート課題」について

出題は、11月中の講義の中で行う（実施日は未定）。

提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。

（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）

・評価は下記とする。

- A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
- B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
- C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要環境が必要となる。

【その他の重要事項】

- ・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。
- ・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL300AD

平和・軍事研究 II

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の前半は、戦後日本の軍事政策の概要と歩みに関して分析や解説を行う。授業の後半は、日本をめぐる東アジアの軍事情勢を詳しく分析する。領土問題をはじめ、日本や東アジアの主要な軍事争点を解説する。

これらを通じて、国際政治における戦争と平和に関する専門知識と東アジア地域の軍事情勢に関する知識を身につける。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチ、東アジア地域の情勢認識、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に教員の講義をもって授業を行うが、理解を助けるために各種の映像物を見せることもある。関係する展示会（例えば、国際航空宇宙展など）や記念館への展覧や感想文を求めることもある。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	平和とは何か	戦争がなければ平和なのか。
第 2 回	超大国による平和 勢力均衡による平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 3 回	集団安保による平和 軍備競争による平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 4 回	世界政府、国連による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 5 回	世界政府、国連による 平和 地域統合、国際法による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 6 回	機能主義 (functionalism) による 平和	過去に存在したり考案された平和 構築方法の長短所と効力を検証
第 7 回	終戦の状況と戦後日本の スタート	平和憲法、自衛隊創設、サンフランシスコ講和条約
第 8 回	日本の軍事政策 1	日米安保
第 9 回	日本の軍事政策 2	核政策・防衛大綱
第 10 回	日本の軍事政策 3	自衛隊とその装備
第 11 回	領土問題	個別の領土問題を概観
第 12 回	中国の軍事政策	中国の核戦力・通常戦力
第 13 回	北朝鮮の軍事政策	核とミサイル戦力 南の韓国に対する戦略
第 14 回	韓国の軍事政策	北に対する戦略 通常戦力、兵役制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念物、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示する。

【参考書】

開講時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The first half of this course introduces the ideas and measures to achieve international peace which many scholars and politicians have envisioned.

It explains its details of ideas and will check how and why it will work or not. The second part of this course introduces the history of post-war Japan's military policy and the military situation of East-Asia surrounding Japan.

The aim of this course is to help students understand the correlation of war and peace, and the knowledge of Japan's military policy and military situation surrounding Japan.

POL300AD

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2019 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第 10 回	日本の冷戦時代の戦略	「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。
第 11 回	日本の核能力	核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。
第 12 回	中国の核戦力	中国の核戦略、核戦力の詳細
第 13 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 14 回	ミサイル防衛	「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念物、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and terror issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

POL300AC

現代政策学特講 I (千代田区)

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：オータムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する実習を中心とする 2 単位科目である。市ヶ谷キャンパスが所在する千代田区における地域社会の政策課題をフィールドワーク (現地調査) を通じて発見し、考察すること。

なお、沖縄県の 2 大学 (沖縄大学・名桜大学)、および千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアムに参加する各大学 (大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、共立女子大学・共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学) の学生も受講可能となっている。

【到達目標】

千代田区に関する事前学習、現地実習等を通じて、地域の特性 (課題、魅力等) を理解し、課題解決のための方法を提案する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、オータムセッション期間を含む 4 日間 (9 月 1 日～14 日) に対面による講義と現地調査、発表を行う。それに加えて、事前にオンデマンド講義も行う。

なお、事前学習や講義や実習では小レポート提出をする。また授業の最後にグループごとに成果発表を行い、さらに終了後には個人レポートを提出する。これらの課題等に対しては、必要に応じて、事前学習、オータムセッション期間中は授業内で、終了後の課題については、学習支援システム上で講評や解説を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
8 月下旬	オリエンテーション・事前学習「千代田区概論」	授業の進め方および目的を説明し、対象となる千代田区の概説をする (オンデマンド)。
8 月下旬	現地実習の事前準備	グループごとに現地実習の準備 (情報収集等) をする (リアルタイムオンライン)。
9 月 11 日 午前	現地実習オリエンテーション	実習の進め方等について共有する。
9 月 11 日 午後	講義：地域課題解決に取り組む学生の取組	大学生による地域課題解決に向けた活動紹介 (ゲスト講師)
9 月 12 日 午前	現地実習 (千代田区内)	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 12 日 午後	現地実習 (千代田区内)	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 13 日 午前	現地実習 (千代田区内)	調査対象地域を訪問し、調査を実施する。
9 月 13 日 午後	グループワーク	調査報告のための作業を行う。
9 月 14 日 午前	成果発表	グループごとに、調査報告や地域の課題解決や発展に関する提案の発表をする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

現地実習準備、発表準備等のために、必要に応じて授業外の時間の作業が必要になる場合がある。

また、事前学習における小レポート作成、実習準備等は授業外の時間に行うことが前提としている。さらに授業終了後には個人レポート提出を予定している。

【テキスト (教科書)】

なし

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループ別発表の評価 (20 %)、最終個人レポートの評価 (20 %)、小レポートの評価 (60 %)。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、対面で行うが、グループ発表とその準備のためにパソコンを使用することを想定している。また事前にオンデマンド教材利用することから、オンライン環境が必要になる。

【その他の重要事項】

受講を希望する学生には、併せて「現代政策学特講 II (沖縄)」を受講することを推奨する。両講とも受講することで、異なる地域社会の比較研究を目指すために必要な多角的な視点をさらに獲得することが期待される。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The purpose of this lecture is to discover and consider policy issues in the community through fieldwork in Chiyoda Ward.

【到達目標 (Learning Objectives)】

To acquire the ability to grasp the characteristics of the region and propose methods for solving problems.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You work outside of classroom to prepare for on-site training and presentations.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on group presentation (20 %), term-end report (20 %), and short report (60 %).

POL200AC

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。

本年度は、合衆国の政治と社会の特質をいくつかのテーマにわけて考察していきます。

【到達目標】

われわれの目に映る現代のアメリカ合衆国は、どのような経緯を経ていまの姿をとるようになったのかを検討するのが本授業の目的です。合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ史を辿ります。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での対面授業を行なう予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。

オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。

受講者は、毎回、質問・コメントなどを HOPPII にアップしてください。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「America」と「United States」
第 2 回	時間 1	新しい社会
第 3 回	時間 2	古典古代の終わり
第 4 回	時間 3	共和主義・ビュウリタニズム・啓蒙主義
第 5 回	空間 1	隔離の論理
第 6 回	空間 2	聖地とフロンティア
第 7 回	空間 3	膨張の論理
第 8 回	人間 1	アメリカ人とはなにか 1 ー入植者と移民
第 9 回	人間 2	アメリカ人とはなにか 2 ー人種・階級・ジェンダー
第 10 回	人間 3	アメリカ人とはなにか 3 ーオバマとトランプ

第 11 回	アメリカニズム 1	統合の論理
第 12 回	アメリカニズム 2	包摂の論理と排除の論理
第 13 回	アメリカニズム 3	世界とアメリカ
第 14 回	時間・空間・人間	それぞれのアメリカを描いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回 4 時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

資料は、コピーして配布するか HOPPII にアップします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (100 %)

Grading will be decided on the term-end examination only.

なお、HOPPII へのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅱとセットになっています。できるだけ、両方の科目とも履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。
本年度は、アメリカ合衆国の政治思潮について考察します。
合衆国についての情報は日本に溢れていますし、合衆国の文化は日本社会に深く広く浸透しています。政治的・軍事的・経済的にも、合衆国は日本と密接な関係にあります。
しかし、合衆国についての理解は深まっていますし、そもそもわかりにくい国だと思えます。
この授業では、合衆国について理解するための一つの補助線として、アメリカ社会の思想（物事の捉え方というくらいの意味で）や行動の特質を考えてみようと思えます。

【到達目標】

合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ理解を深めることをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思えます。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業です。

ただし、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。

オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。

受講者は、毎回、リアクション（質問・コメントなど）を HOPPII にアップしてください。

すぐれたリアクションについては、成績評価において加点します。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リベラリズム 1	・リベラリズムの伝統ーリベラリズムしか知らない社会
第 2 回	リベラリズム 2	・封建制の不在と社会主義の不在 社会民主主義としてのリベラル vs. リベラリズムとしての保守主義
第 3 回	リベラリズム 3	多文化主義とリベラリズムー分離の論理と包摂の論理
第 4 回	デモクラシー 1	代表制ー自治なのか統治なのか アメリカ的な代表観を考える

第 5 回	デモクラシー 2	ポピュリズムー「人民（people）」とはだれなのか
第 6 回	デモクラシー 3	ストリート・デモクラシーー直接民主政の伝統
第 7 回	アメリカ的キリスト教 1	丘の上の町ーアメリカ例外主義
第 8 回	アメリカ的キリスト教 2	市民宗教ー統合の論理
第 9 回	アメリカ的キリスト教 3	信仰復興運動ー改革の思想
第 10 回	多文化主義 1	多様性の論理
第 11 回	多文化主義 2	共通の価値の解体
第 12 回	反知性主義 1	有用な知識の重視
第 13 回	反知性主義 2	知性への不信心
第 14 回	理念の共和国	アメリカとはなにか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示しますので、それを読むようにしてください。

とりわけ、教科書は、読んでいることを前提にして授業しますので、授業中にはその内容について触れない場合もあります。ですから、教科書は必読です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中適宜紹介します。

資料は、コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100%）

Grading will be decided on the term-end examination only.

リアクションが優れていれば、成績評価において加味します。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

American Political and Social Thought.

HUG200BF

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の全体像の提示
第 2 回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第 3 回	文化地理学とセクシュアリティ (1)	LGBT の空間経験 (1)
第 4 回	文化地理学とセクシュアリティ (2)	LGBT の空間経験 (2)
第 5 回	文化地理学とセクシュアリティ (3)	「女性専用車両」の意味
第 6 回	文化地理学とポリティクス (1)	政治という場所
第 7 回	文化地理学とポリティクス (2)	男性・同性愛の空間構造
第 8 回	文化地理学と広告 (1)	自然な風景
第 9 回	文化地理学と広告 (2)	身体と空間
第 10 回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第 11 回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第 12 回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第 13 回	文化地理学と現象学 (1)	空間の認識論
第 14 回	文化地理学と現象学 (2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800 円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100 %）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF

文化地理学（2）

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、順に読解しながら、文化地理学のさまざまなトピックを学び、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的
第 2 回	文化地理学の視点	空間・環境・景観
第 3 回	文化地理学研究の手順	視点としての空間
第 4 回	空間と環境と景観	さまざまな環境論
第 5 回	言語の文化地理学	言語と空間・環境・景観
第 6 回	自然と生業の文化地理学	自然・生業と空間・環境・景観
第 7 回	宗教の文化地理学	宗教と空間・環境・景観
第 8 回	民俗の文化地理学	民俗と空間・環境・景観
第 9 回	政治の文化地理学	政治と空間・環境・景観
第 10 回	都市の文化地理学	都市と空間・環境・景観
第 11 回	観光の文化地理学	観光と空間・環境・景観
第 12 回	性の文化地理学	性と空間・環境・景観
第 13 回	文化地理学の前線と現代の文化	デジタル文化
第 14 回	文化地理学の応用	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森正人・中川正 (2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』（ナカニシヤ出版）¥2400 + 税

【参考書】

中俣均編 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥4180

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100%）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

MAN200FA

寄附講座・資本市場の役割と証券投資

原 宏敏

特殊講義選択_特殊講義 2~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融資本市場の役割及び証券投資における重要なテーマについて、野村証券社員として豊富な実務経験を重ねた講師陣が 14 回の講義を通じてリレー形式で解説を行う。生きた経済や実践的な金融知識について学び、実生活において金融リテラシーを活用した行動がとれるようになる。
※講義テーマ、順番、講義形態等変更可能性あり。

【到達目標】

- 金融資本市場の役割や経済との関りを理解・習得できる。
- 「株式」「債券」「投資信託」「外国為替」などの証券市場・投資における各特徴や、分散投資の効用などが理解できる。
- 自身のライフプランニングや資産形成に必要な金融リテラシーが習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

- 野村グループ各講師による講義を進めていきます。
- 適宜授業中に質問を行ったり、計算問題を解いて頂くなど双方でのやり取りが発生することもあります。
- 感染症対策などにより、対面授業が困難な場合、オンライン（Zoom、Webex 等）によるリアルタイム非対面授業や教材並びに音声ファイルの提供によるオンデマンド型の授業となる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「ガイダンス・経済情報の捉え方」	金融リテラシーを身につけることの重要性、本講座で学習する意義を理解する。我々の周りにある様々な経済情報を通じて、どのように経済というものが成り立っているかを理解する。
第 2 回	「金融資本市場の役割とその変化」	重要性が高まっている金融市場への理解を深める為、金融の仕組み、我が国の資金循環の状況、経済と関連した最近の構造的変化などを学習し、金融市場の役割を理解する。
第 3 回	「債券市場の役割と投資の考え方」	債券と預貯金の違い、利回りと単価の関係などの基礎知識を踏まえた上で、債券価格（=金利）の変動と景気・政策・需給などとの関連について理解を深める。また、債券投資に伴う投資リスクについても学習する。
第 4 回	「株式市場の役割と投資の考え方」	株式の誕生からその意義、原則などの基礎知識と、株式投資の魅力や株式市場について学習した後、株目の分析、評価方法を踏まえた銘柄選択の考え方などについて理解を深める。
第 5 回	「投資信託の役割とその仕組み」	「貯蓄から投資へ」と資産の流れが強まる中、その先導役として期待される投資信託の理解を深める。投資信託という言葉の意味から、特徴、仕組みなどについて学習する。また、投資信託の選び方や最近注目されている投資信託についても、具体的に学ぶ。

第 6 回	「リスク・リターンとポートフォリオ分析」	「リスクとは」「リターンとは」という基礎知識と、「リスク・リターン」の関係について学習し、ポートフォリオ構築の際の重要な要因である「分散投資」の考え方について学習する。
第 7 回	「外国為替相場とその変動要因について」	「外国為替」の基礎知識と、外国為替レートの変動要因について学習する。また世界の外国為替の状況を知る。
第 8 回	「グローバル化する世界と資本主義の果たす役割」	野村ホールディングス名物講師である池上シニア・コミュニケーションズ・オフィサーより、「グローバル化とフラット化の進展による世界の変化と、この新たな時代に何が求められるのか」について学ぶ。
第 9 回	「ライフプランニングと資産形成」	なぜライフプランが必要なのか、ライフプランを踏まえた資産管理の重要性、そしてその方法を具体的に紹介する。特に、資産形成制度を詳しく取り上げ、いま話題の少額投資非課税制度（NISA、ニーサ）についても紹介する。
第 10 回	「公的年金制度について」	この講義では、公的年金制度の仕組みや制度などの基礎知識、年金制度を取り巻く変化や、改正への動きを学習する。年金制度を正しく理解し、さらに自助努力も続けることは、ライフプランの充実につながる。
第 11 回	「確定拠出年金（DC）について」	この講義では、比較的新しい年金制度である「確定拠出年金」について詳しく学ぶ。加入者が増えている現状を把握しながら、「企業型」と「個人型」の違いや「運用の仕組み」また「税制メリット」などを学び、最後に、社会人になって実際に確定拠出年金を活用する際にイメージできるように、具体的な運用商品のラインアップの例も含めて学習する。
第 12 回	「DC ポートフォリオの作成」	この講義では確定拠出年金制度を活用するにおいて、学んだ知識を活かしながら、実際に拠出金をどのような資産の組み合わせとし、自身の年金ポートフォリオを構築するかを模擬練習も交えて考えていく。
第 13 回	「マネープランの作成」	この講義では、自らの『マネープランの作成』を通じ、全体の講義のまとめとしていく。自らの資金管理がとて大切な時代であり、皆さんがこれから社会人となるにあたり、特にしっかりと対応すべき課題と考えるべきだろう。主体的な模擬体験を通じ、この講義で得た知識を自らの将来に生かしていただきたい。
第 14 回	試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

金融資本市場・経済に関するトピックを取り上げる機会が多いので、日経新聞等の経済情報に日頃から目を通しておくことが望ましい。各回の講義用資料による事後学習が望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回の講義資料を授業支援システムにて事前に配信予定。

【参考書】

「入門証券論 第3版」

榊原茂樹、城下賢吾、姜喜永、福田司文、岡村秀夫著／有斐閣コンパクト

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点等 30 %

This course will be evaluated through:

- Term end examination : 70%.

- Participation and performance in classroom activities : 30%

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な事柄を重視しつつも、より現場感覚を盛り込んだ講義内容にするなど、資本市場をより身近なものと感じられる工夫をしております。

【学生が準備すべき機器他】

講義の1週間前を目途に、授業支援システムにて講義資料を配布予定です。

【その他の重要事項】

全講義の講師が証券業界・あるいはアセットマネジメント業界において勤務しています。

証券投資提案、ライフプランニング、アセットマネジメントなど各分野で活躍中の人材が最前線で起きている経済事象についての事例を交えながら講義を行います。

【関連科目】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【none】

none

【Outline (in English)】

Lecturers with abundant practical experience as Nomura Securities employees will explain the role of the financial and capital markets and important themes in securities investment in a relay format through 14 lectures.

SOC200ZA

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈グ〉〈S〉〈未〉

[Outline and objectives]

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender and sexuality affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: “Inequality”	What do we mean by inequality?
3	Foundation: “Social Class”	How do Marx and Weber conceptualize social class?
4	Social Class in Japan	What does social stratification in Japan look like?
5	Foundation: “Race and Ethnicity”	What are the main theoretical approaches to race and ethnicity?
6	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
7	Defining Japaneseness	Film viewing: “Hafu: The Mixed-Race Experience in Japan”
8	Foundation: “Gender”	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: “Sexuality”	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexuality Inequality in the Labor Market	What does labor market discrimination based on sexual orientation look like?
12	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
13	Practicing Intersectionality in Sociological Research	What does it mean for sociologists to practice intersectionality as a theoretical and methodological approach to inequality?
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further references may be provided based on students’ areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Others]

Students are strongly encouraged to take Race, Class and Gender II after completing Race, Class, Gender I. Students who have passed Race, Class and Gender I will be given admission priority to the seminar “Intersectionality: Multiple Inequalities.”

[Prerequisite]

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed “Introduction to Sociology.”

ECN200ZA

Foundations of Finance

Karen Lai Kai Lin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 2/Wed.2

その他属性 : 〈グ〉〈未〉

[Others]

This course requires students to like “numbers” because it involves calculations.

[Prerequisite]

None

[Outline and objectives]

Learning the fundamental concepts of finance. This is a finance course that focuses on the core principles of finance, including financial statements, financial performance, time value of money financial assets such as bonds, stocks, and risk analysis. Even if you are not planning a career in finance, a working knowledge of finance will help you to understand and interpret financial information around you.

[Goal]

This course presents the fundamental concepts of finance to students. The goal of this class is to understand corporate finance analyses that are used in business. At the end of this course, students will learn how to construct financial statements, calculate various financial ratios, and understand financial assets such as bonds and stocks. Students will acquire the analytical skills necessary to make good financial decisions.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course is taught primarily through lectures. Feedback is given during class time and through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Financial Statements (1)	Construct the Income statement
3	Financial Statements (2)	Construct the Balance sheet and cash flow statement
4	Financial Performance (1)	Calculate financial ratios
5	Financial Performance (2)	Analyzing financial ratios
6	The Time Value of Money (1)	Calculate present value, future value ,and annuity
7	The Time Value of Money (2)	Understand interest rate and uneven cash flow
8	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which you understand the subject
9	Financial Assets (1)	Understand the determinants of interest rate
10	Financial Assets (2)	Understand different types of bonds
11	Financial Assets (3)	Bonds valuation and rating
12	Financial Assets (4)	Understand and calculate stand-alone risk
13	Financial Assets (5)	Understand and calculate risk in a portfolio context
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which you understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to download the lecture slides, read the textbook and complete any assignments given. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Brigham, Eugene, Houston, Joel F. *Essentials of Financial Management*, 3rd Edition, Cengage Learning Asia Pte Ltd, 2014.

You are not required to buy the textbook. There are copies available in the library.

[References]

Further materials will be provided by the instructor.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (10%), assignments (20%), midterm exam (35%) and a final exam (35%).

[Changes following student comments]

Not applicable.

POL200ZA

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈グ〉〈未〉

【Outline and objectives】

This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of war; the conditions for peace; strategies for avoiding conflict, managing and resolving disputes; and the impact of new technologies, weapons, actors and ideas on states' calculations on whether to use force.

【Goal】

The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.

Second, examining contemporary security challenges related to armed conflicts, arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings, and terrorism.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term essay preparation	Review of week 2-7
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in the reference section before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Collins, Allan (ed). *Contemporary Security Studies*, Sixth edition. Oxford University Press, 2022.

【References】

Williams, Paul D and McDonald, Matt (ed). *Security Studies: An Introduction*. Third edition. Routledge, 2018.

Baylis, John, Wirtz, James J and Gray, Colin S. *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), mid-term essay (45%), final examination (45%)

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

【Prerequisite】

none.

SOC300ZA

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈グ〉〈優〉〈S〉〈未〉

[Outline and objectives]

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	The Social Construction of Sperm	How does science construct a romance based on stereotypical male-female roles?
4	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
5	Race and Queer Family Formation	How does race and sexuality intersect in the context of surrogacy?
6	Transnational Adoption	Film viewing: "First Person Plural"
7	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
8	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work I	What is sex work? What is the difference between human trafficking and sex work?
12	Human Trafficking and Sex Work II	Who are migrant sex workers? What are some issues faced by them?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC200ZA

Race, Class and Gender I: Concepts & Issues

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈グ〉〈ダ〉〈未〉

[Outline and objectives]

This class sees our society through the lens of race, class and gender to understand how privilege and inequality are produced, maintained, naturalized and challenged. The course will look at how various inequalities are connected to one another through examining global, national and local issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

Through lectures, discussion and written assignments, students will learn concepts and theories to analyze how race, class, gender and sexuality affect individuals and society. They will learn to apply these analytical tools and knowledge to form critical opinions on current issues related to various bases of inequalities. Students will acquire skills in critical thinking, analysis and writing that can be applied in other academic fields as well as future careers.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Foundation: “Inequality”	What do we mean by inequality?
3	Foundation: “Social Class”	How do Marx and Weber conceptualize social class?
4	Social Class in Japan	What does social stratification in Japan look like?
5	Foundation: “Race and Ethnicity”	What are the main theoretical approaches to race and ethnicity?
6	Critical Race Theory	What are the key premises of Critical Race Theory?
7	Defining Japaneseness	Film viewing: “Hafu: The Mixed-Race Experience in Japan”
8	Foundation: “Gender”	What are the main theoretical approaches to gender?
9	Gender Inequality in Japan	What does gender inequality in Japan look like?
10	Foundation: “Sexuality”	What are the main theoretical approaches to sexuality?
11	Sexuality Inequality in the Labor Market	What does labor market discrimination based on sexual orientation look like?
12	Foundation: “Intersectionality”	What is intersectionality?
13	Practicing Intersectionality in Sociological Research	What does it mean for sociologists to practice intersectionality as a theoretical and methodological approach to inequality?
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further references may be provided based on students’ areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Others]

Students are strongly encouraged to take Race, Class and Gender II after completing Race, Class, Gender I. Students who have passed Race, Class and Gender I will be given admission priority to the seminar “Intersectionality: Multiple Inequalities.”

[Prerequisite]

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed “Introduction to Sociology.”

POL200ZA

International Security

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈グ〉〈未〉

[Outline and objectives]

This course covers the approaches to security studies, a sub-discipline of International Relations (IR). Security studies mainly examines the causes of war; the conditions for peace; strategies for avoiding conflict, managing and resolving disputes; and the impact of new technologies, weapons, actors and ideas on states' calculations on whether to use force.

[Goal]

The course objectives are: (1) to enable students to develop a broader understanding of the key theories and concepts in security studies; (2) to examine major security challenges in the international arena through the lens of theories and concepts; (3) to acquire the ability to form their own answers to enduring and contemporary questions inherent in international security studies.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course has two segments: First, presenting major theories and concepts in security studies, necessary for understanding contemporary security policies and issues.

Second, examining contemporary security challenges related to armed conflicts, arms trade and military competition, nuclear proliferation, genocide and mass killings, and terrorism.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Military Security	Exploring the concepts of military security
3	Regime Security	Exploring the concepts of regime security
4	Societal Security	Exploring the concepts of societal security
5	Human Security	Exploring the concepts of human security
6	Environmental Security	Exploring the concepts of environmental security
7	Review and Mid-term essay preparation	Review of week 2-7
8	The Evolution of Modern Warfare	Examining changes in warfare
9	The Arms Trade	Examining the key aspects of the contemporary arms trade
10	Nuclear Proliferation	Examining the important aspects of nuclear proliferation
11	Humanitarian Intervention	Providing an overview of the heated debate in terms of the validity of humanitarian intervention
12	Terrorism	Analyzing the threat that terrorism poses to countries and the world
13	Review and Preparation for the final exam	Review of major topics covered by week 9-13
14	Review and Final Exam	Review and Written test

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to have read the relevant chapters for the books listed in the reference section before attending the lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Collins, Allan (ed). *Contemporary Security Studies*, Sixth edition. Oxford University Press, 2022.

[References]

Williams, Paul D and McDonald, Matt (ed). *Security Studies: An Introduction*. Third edition. Routledge, 2018.

Baylis, John, Wirtz, James J and Gray, Colin S. *Strategy in the Contemporary World*. Seventh Edition. Oxford University Press, 2022.

[Grading criteria]

Contribution to discussion (10%), mid-term essay (45%), final examination (45%)

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Some course materials will be delivered via the Hoppii.

[Others]

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

[Prerequisite]

none.

SOC300ZA

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki HIRAMORI

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈未〉

[Outline and objectives]

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	The Social Construction of Sperm	How does science construct a romance based on stereotypical male-female roles?
4	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
5	Race and Queer Family Formation	How does race and sexuality intersect in the context of surrogacy?
6	Transnational Adoption	Film viewing: "First Person Plural"
7	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
8	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work I	What is sex work? What is the difference between human trafficking and sex work?
12	Human Trafficking and Sex Work II	Who are migrant sex workers? What are some issues faced by them?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

高橋 実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

なお、初回の授業（第1回）は、オンデマンド授業（コンテンツ動画配信）で行います（登録者に学習支援システムを通じて案内します）。対面型の授業以外に、学習支援システムやメールを積極的に活用しますので、受講期間は必ずチェックを行うようにしてください。

■課題等の提出

・学習支援システムを利用して行います。
・授業後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が授業で指定した課題等の提出となります。

■フィードバック方法

・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。

・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。
・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。

■特別課題について

・授業計画以外に、本講義の目的に沿ってオンデマンド教材にて特別授業を行う場合があります。

■受講ルール

本授業の大きなテーマは「自立（自律）」です。そのため、授業内では「社会のルール」を適用します。（授業内で詳しく説明します。特に第1回のオリエンテーションは必ず視聴してください）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（オンラインによる動画視聴）】多くの企業の人事を歴任してきた現役の人事バラレルワーカー（複業者）として、講師自身のキャリアケースをお話しします。また、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。併せて授業のルールなどの注意事項についても説明します。
2	大学での学び	「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。多くの大人がそう考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も姿勢も大きく変えなければいけません。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を考えます。
3	社会に出るといいうトランジション	大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何がかわるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくかを解説します。
4	働くことの意味	「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？ では「働きがい」とはどういうことでしょうか？ 働くことは本当に辛いことなのでしょうか？ 大人でも悩むこのテーマを考えます。
5	外部環境と個人のキャリア	世界はコロナ禍や不安定な国際情勢など、大きく変化してきています。また、これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。未来の日本でこれからどんなことが起こるのか？ そして、その中でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会の外部環境について解説します。
6	働き方と多様性	女性も勿論、外国人、高齢者、障害者、LGBTQ など、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。企業の人事部長経験や現役の人事バラレルワーカー（複業者）の視点から、これからの社会の変わりゆく多様性の解説と、「多様性とは何か」を考えてもらいます。
7	なぜ企業は採用をするのか	なぜ企業は「採用」を行うのでしょうか？ 現役の人事だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。働く場所となる企業の考えを理解することで、自分のこれからのキャリアを考えてもらいます。

- 8 組織におけるコミュニケーション
組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時としてずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合いねばならないことも多くあります。組織ではどのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。組織におけるコミュニケーションを解説しつつ、自分自身のコミュニケーションの課題について考えてもらいます。
- 9 キャリアモデルケーススタディ
【オンデマンド授業】現役で働いている社会人に、自身のキャリアと、キャリアを培ってきた想いなどをお話いただけます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のこれからのキャリアを考えます。
- 10 「評価される」とはどのようなことか
社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのかを解説を交えながら考えてもらいます。
- 11 インターンシップ（キャリアセンター担当）
インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が先輩の事例や参加の注意点などを解説します。
- 12 ポストコロナのオンライン時代に向けてやるべきこと
コロナ禍で、世界中の環境が激変しました。それに伴いテクノロジーや働き方の変化は大きく進むことになりました。個人の自由度や選択肢は高まっていますが、求められるものが高度化して厳しい時代に入ります。ポストコロナ時代の未来をみなさんが幸せに生きていくためにやるべきことを解説し、自分自身のこれからのキャリアについて考えます。
- 13 学生生活と就職の準備（キャリアセンター担当）
就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
- 14 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。授業の総括や振り返りを通しながら、卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを考え、自分自身の主体的な行動計画を企画していきます。
(授業内容は変わることがあります)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
毎回授業後に「リアクションペーパー」の提出課題があります。

また、復習のために、本授業の受講者は必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。

14回の授業のほか、オンデマンド教材による特別授業もあります（キャリアデザイン入門の他の講師とのコラボレーション特別授業など）。

なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます（自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください）

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

授業で使用した資料等は、授業後に配布します。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでください。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが70%。期末レポートが30%の割合で評価します。また、平常点も加味します。本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を授業後のリアクションペーパー、最終課題等では常に求めます。

①考察をする

「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに自分自身で「考察」してもらうことが必要です。

②自分自身に向き合う

本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らした考察を求めます。

③自身の行動に落とし込む

本授業で伝えた知見は、それをもとに自身の行動が変わることが必要です。具体的な行動目標を立てて実行することを求めます。

また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点評価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

「自分自身のキャリアを真剣に考えたい」人のみが受講してください。自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要で、かなり厄介で面倒なプロセスです。本講義では、徹底的に自分自身と向き合ってもらうため、積極的な受講意識が必要になります（決して楽ではありません）。

本気で自身のキャリアを考えたい人には、将来社会人になってからも活用できる知識とノウハウが身に着くはずです。

【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアマイノート」を必ず事前準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

授業内では、学習支援システムや相互チャットツールも活用します。パソコンも持参してください。

また、第1回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出、コミュニケーションのために学習支援システムやメール等を積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】

【その他の重要事項 / Others】

■講師プロフィール

新卒でJCB入社、その後NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後40歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業100年企業、IT企業のHDE（現HENNGE）で人事部長を歴任。これまで2,000人を超える新卒学生と面接を行ってきている。

2018年から現職。「マイクロ人事部長」として、バラレルワーク（複業）を行って複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。現職の人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

<https://bizhint.jp/report/398484>

■受講制限について

本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

【Learning Objectives】

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is 2 hour for each class meeting.

And Students must prepare a "notebook of your career" in this class.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- ・ Short reports after each class meeting : 70%
- ・ Reports inTerm-end : 30%

CAR100LG	キャリアデザイン入門	大八木 智一	開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2 単位	曜日・時限：水 3/Wed.3 キャンパス：市ヶ谷	備考（履修条件等）：	その他属性：〈未〉	3 激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】									
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】	この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。						4 働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】									
【到達目標】	自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。						5 働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】									
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1						6 結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】									
【授業の進め方と方法】	環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。						7 グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】									
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】	あり / Yes						8 インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】									
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】	なし / No																
【授業計画】 授業形態：対面/face to face	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】</td> <td>本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>大学での学び</td> <td>大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】</td> </tr> </tbody> </table>						回	テーマ	内容	1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】	2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】		
回	テーマ	内容															
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】															
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】															

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

大八木 智一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会で働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS（Plan, Do, See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】

3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題をSDGsの観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept Lea you need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem ,to think about the solution ,and to have the ability to continue to perform.

【Leaning activities outside of class】

In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン入門

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。
第 2 回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第 3 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。

第 4 回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメント活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第 5 回	学生と社会人	社会人に求められていることとは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第 6 回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第 7 回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティー（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。
第 8 回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。
第 9 回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会です。本授業では 窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第 10 回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第 11 回	パーパスが企業と社員に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパス＝存在意義を重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや社員に与える影響について解説をしていきます。

- 第12回 やる気とモチベーション
これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
- 第13回 グローバル人材とは
グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第14回 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業において事前課題を実施していただく回があります。事前課題は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜35％＞、授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み＜25％＞ 期末レポート＜40％＞、
- ・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成・文字数・締切日までの提出等評価します。
- ・授業への貢献は、発言・発表・質問・レポートへの積極的な取り組みや記述内容・姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
- ・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
- ・対面授業でも複数人数によるグループディスカッションを、実施したかったという意見がありました。対面では、履修人数・環境・状況等を考慮し、少人数グループの意見交換の実施。オンライン授業では、ブレイクアウトルームを活用した複数人数によるディスカッションを適宜実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器（パソコンの使用を推奨します）
- ・筆記用具
- ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）
- ・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う。

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

●各テーマの授業実施日や形態が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。

●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもつてきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。

●授業では、これまでの私自身の経験・ネットワークや企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. four hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination: 40% and In-class contribution: 25%.

CAR100LG

キャリアデザイン入門

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 5/Fri.5 | キャンパス：市ヶ谷

備考（履修条件等）：

その他属性：〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本科目の授業主旨、授業計画、進め方、成績評価方法、求められる参加態度等について概要を説明します。併せて、授業受講に必要なシステムの活用法、学生相談室やキャリアセンター等の窓口の利用法、学生生活上の注意事項などに関する情報の提供を行います。
第 2 回	キャリア・キャリアデザインに関する諸理論	キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方を解説します。さらにキャリアデザインを学ぶ意義についても考えていきます。
第 3 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。

第 4 回	自己理解と自分を伝える技術	アセスメント活用し自分の特徴についての理解（自己理解）を深めていきます。自分の意見や感情を伝える「アサーション」を学び、今後実践できるようになること。落ち込んでもしなやかに立ち直る力を理解し養っていきます。
第 5 回	学生と社会人	社会人に求められていることとは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第 6 回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第 7 回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティー（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。
第 8 回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。
第 9 回	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会です。本授業では 窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
第 10 回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかを議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。
第 11 回	パーパスが企業と社員に与える影響とは	目的・意図を表す「パーパス」。ビジネスシーンでは「何のために組織や企業が存在するのか」「社員は何のために働いているのか」という「存在意義」を表す概念として使われています。こうしたパーパス＝存在意義を重視する経営が国内外で注目を集めています。パーパスが求められる背景・導入プロセス。パーパスが企業ブランドや社員に与える影響について解説をしていきます。

- 第12回 やる気とモチベーション
これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。モチベーションを高め、維持する有効な考え方や方法も学んでいきます。
- 第13回 グローバル人材とは
グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第14回 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業において事前課題を実施していただく回があります。事前課題は、授業内及び学習支援システムにてお知らせします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードやプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜35％＞、授業への貢献＝発言・発表・質問・課題レポートへの取り組み＜25％＞ 期末レポート＜40％＞、
- ・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成・文字数・締切日までの提出等評価します。
- ・授業への貢献は、発言・発表・質問・レポートへの積極的な取り組みや記述内容・姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、双方向のコミュニケーションを活発に行ってきました。
- ・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。
- ・対面授業でも複数人数によるグループディスカッションを、実施したかったという意見がありました。対面では、履修人数・環境・状況等を考慮し、少人数グループの意見交換の実施。オンライン授業では、ブレイクアウトルームを活用した複数人数によるディスカッションを適宜実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器（パソコンの使用を推奨します）
- ・筆記用具
- ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）
- ・課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う。

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

【受講制限】本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

●各テーマの授業実施日や形態が変更になる可能性があります。各回の授業テーマや形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約20年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。

●企業や大学等で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもつてきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。

●授業では、これまでの私自身の経験・ネットワークや企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. four hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination: 40% and In-class contribution: 25%.

CAR100LG	キャリアデザイン入門	大八木 智一	開講時期：春学期授業/Spring 単位数：2 単位	曜日・時限：金 1/Fri.1 キャンパス：市ヶ谷	備考（履修条件等）：	その他属性：〈未〉	3 激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】	この授業では、①大学での過ごし方、②社会で働くということについて、一緒に考えていくことで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。授業の中では、より長期的な人生を歩むうえで必要となる考え方や、社会や働くということについて基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて自分で行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。						4 働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティー】
【到達目標】	自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけでもありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回していける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。						5 働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】	各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1						6 結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
【授業の進め方と方法】	環境の動向を考慮しながら参加型の授業スタイルをできる限り取り入れ、教員や学生同士のコミュニケーション機会を設けます（グループワーク、対話、レポートのフィードバックなど）。						7 グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】	あり / Yes						8 インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】	なし / No							
【授業計画】 授業形態：対面/face to face								
回	テーマ	内容						
1	オリエンテーション 【初回はオンデマンド授業になります】	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。また学生生活を送るにあたって必要な支援を受けられる学内の機関について紹介する【キーワード：キャリアデザイン、大学生としての学生生活を始めよう！、困ったときのコンタクト先】						
2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】						

- 9 思考のメカニズム 自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
- 10 意思決定と認知バイアス いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
- 11 仕事と幸福 キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
- 12 チャンスを広げるための行動様式の改革 チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】
- 13 学生生活と就職の準備 本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】
- 14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100 %）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに 70 % 以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の 60 % 以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PC やタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナ感染症の拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第 1 回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを 2 つに分けて、1 回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の 2 倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第 1 回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に 4 時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れられます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。
 この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。
 この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思いをします。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのために、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CST300NC

減災工学（2019年度以降入学生）

藤村 和也、山崎 文雄、吉見 雅行、室野 剛隆、矢部 正明、鈴置 真央、田村 匡弘、永野 正千、中村 圭吾、野村 文彦、橋本 翼、松山 芳士、渡邊 佑輔

開講時期：年間授業/Yearly | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模の気候変化とともに、日本では人口減少・高齢化、国土の二極化など社会構造の変容が著しい。ハザードへの暴露率が世界有数の高さにあるわが国において、人々の生命を守り災害による社会システムの損失を最小化するためには、災害リスク評価に基づく減災施策を的確に進めることが喫緊の課題である。地震災害、土砂災害、風水害など自然災害の実態を理解し、国内外で取り込まれる減災の事例と先端技術を学ぶ。

【到達目標】

多様な減災戦略に供する工学体系の学修を通し、技術者として安全・安心で持続可能な国土を形成するために必要な科学知識や素養を修得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	10%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用能力	30%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	20%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国内外における自然災害の事例と地球環境や社会の変化にともなう災害特質の経年的推移を理解し、災害の発生機構や社会システムに及ぼす影響などを学ぶ。自然災害規模がハザード、暴露率、脆弱性の関数であり、暴露率と脆弱性の最小化が減災工学の目的であることを理解する。前半では地震外力をハザードとする場合の社会インフラへのダメージと様々な技術分野で開発された減災施策を講述する。後半では、気象外力をハザードとする風水害・沿岸災害・土砂災害の国内外事例と減災施策を紹介し、減災を進める上での課題と様々な技術・政策の減災効果について学ぶ。いずれの種類のハザードに関しても、環境と防災の一体化、生態系サービスを利用した防災・減災の重要性を学ぶ。授業の最終段階では減災を実質化する上で必要な事前・事後復興施策、BCP、地域社会のあり方など、減災の社会工学的アプローチを学修する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地震	地震の発生メカニズム：断層・地震
2	地震	地震によるライフライン（ガス、水道）の被害と復旧
3	地震	地震によるライフライン（電力）の被害と復旧
4	地震	地震による鉄道インフラの被害と復旧
5	地震	地震による道路インフラの被害と復旧
6	地震	地震に対する減災施策：リスク管理、地震保険

7	防災・減災計画	総力戦で挑む防災・減災プロジェクトについて
8	非難計画	水害からの避難について～近年の水災害と水防行政～
9	気候変動と水害	気候変動への対応と流域治水
10	治水事業	荒川における河川整備について
11	防災・環境	治水と環境が調和した多自然川づくり
12	土砂災害	土砂災害対策について
13	内水害	下水道による都市浸水対策について
14	海岸・港湾の防災	港湾・海岸の防災・減災対策について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自学自習に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義資料を配付

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

自然災害の発生メカニズム、社会インフラの被災と減災、気候変動が自然災害に及ぼす影響、防災・減災と環境施策の一体性、持続可能な国土に求められる社会の条件と技術者の使命、などに関する理解度を演習レポート（30%）と期末試験（70%）により総合評価する（遠隔授業の場合には期末試験の代わりに各自が作成した学習メモなどを通して学力確認をする場合がある）。100点満点に換算した上、60点以上を合格とする。欠席4回以上の場合には単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

地盤力学及演習（必修）、地盤環境工学（必修）、水理学Ⅰ及演習（必修）、河川環境工学（必修）、ならびに水文気象学、流域水文学、水理学Ⅱを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Along with global climate change, the social structure of Japan is undergoing remarkable changes such as population decline and aging. Japan is one of the countries in the world that are exposed to most severe natural hazards. Therefore, it is an urgent task to properly implement disaster mitigation measures based on disaster risk assessment in order to protect people's lives and minimize the loss of social systems due to disasters. The objective of this program is to understand science of natural disasters such as earthquake disasters, sediment-related disasters, and storms and floods, and to learn about disaster mitigation examples and advanced technologies. (Learning Objectives)

Through the study of engineering systems that contribute to various disaster mitigation strategies, students will acquire the scientific knowledge and skills necessary to develop a safe, secure, and sustainable land as an engineer.

(Learning activities outside of classroom)

Continuously keep on one's self study. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Score is given by evaluating how much students understand mechanism of occurrence of natural disasters, damage and mitigation of social infrastructure, impact of climate change on natural disasters, integration of disaster prevention/mitigation and environmental measures, social conditions required for sustainable national land and the mission of engineers, etc. Comprehensive evaluation is made based on the exercise report (30%) and the final exam (70%). After converting to 100 points, a score of 60 or higher is considered a pass. Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (evaluation D).

POL200GA

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- (1) 消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- (2) 国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- (3) 基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実際に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は1-2年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとする事について考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデータベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回の授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。

・授業後課題は最初のうちはかなり負担が重く感じているようだが、続けるうちに大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと肯定的なフィードバックが多くなった。そのような授業だと思って取り組んで欲しい。

・履修者が多いため、過去2年間はオンデマンド形式だったが、2023年度から対面で実施する。毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを行う。

【学生が準備すべき機器他】

・法政大学の教育活動における行動方針がレベル2以上になった場合は、オンライン授業に切り替えるため、パソコン、および動画（もしくは音声入りパワーポイント）を視聴できるネット環境が必要。

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ART200GA

比較表象文化論

竹内 晶子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、オリエンタリズムとジェンダー論、それぞれについて基本的な枠組みを学んだあと、オペラ、バレエ、映画、舞台などの具体的な作品に対して、理論を応用した分析を試みていきます。

【到達目標】

・作品分析のツールとして理論を使いこなす力をつけるとともに、様々な表象文化作品の比較分析に必要な、基本的な能力を身に付ける。
・作品をとりまく時代・社会・文化が作品にどのように反映されているのか、また、伝達手段（メディア）が作品の表現にどのような影響を与えているのか、という表象文化分析に必須の問題意識を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、比較の手法を取り入れた表象文化分析を、理論の勉強と応用を通じて学びます。具体的には学期前半でオリエンタリズムを、後半でジェンダー論をとりあげ、これらの理論を用いて、オペラ、バレエ、映画、舞台などの作品群（同一テーマを扱いつつも、時代・メディアを異にする作品群）を比較分析していきます。

毎回、課題テキストや前回の授業で鑑賞した作品を考察し、SQ (Study Questions) への答えを提出してから授業に出席することが必須です。実際に自分の頭を悩ませて「分析」する作業を通じて初めて、「理論」を自分のツールとして使いこなすことが可能になり、具体的な作品を分析していく力が身につくはずだからです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	オリエンタリズム I	オペラ『蝶々夫人』台本分析
3	オリエンタリズム II	オペラ『蝶々夫人』演出分析
4	オリエンタリズム III	映画『ラスト・サムライ』鑑賞
5	オリエンタリズム IV	映画『ラスト・サムライ』分析
6	オリエンタリズム V	映画『バイマックス』鑑賞
7	オリエンタリズム VI	映画『バイマックス』分析
8	ジェンダー論 I	「シンデレラ」コンプレックス
9	ジェンダー論 II	アニメ『シンデレラ』鑑賞
10	ジェンダー論 III	アニメ『シンデレラ』分析
11	ジェンダー論 IV	映画『エバーアフター』鑑賞
12	ジェンダー論 V	映画『エバーアフター』分析
13	ジェンダー論 VI	バレエ「シンデレラ」分析
14	総論	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、定められた期限までに学習支援システムに課題（SQ）へのレスポンスを提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布プリントを使用します。教科書は用いません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題 (Study Question): 50%
- ・積極的な授業参加 (ディスカッション) : 20%
- ・期末レポート : 30%
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の回答を授業内で多く紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況他理由でオンライン授業になった場合、「ラスト・サムライ」、「バイマックス」、ディズニーアニメ「シンデレラ」、「エバーアフター」は当該週に学生各自がオンラインでレンタルして視聴する必要があります。レンタル料はそれぞれ300円程度〜かかります（レンタル方法によって料金は異なります）。

【その他の重要事項】

第一回目の授業はオンラインで行います。履修希望者の数によっては初回の課題をもとに選抜を行いますので、必ず初回授業後、定められた締切日までに課題を提出してください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn the basic theoretical frameworks of Orientalism and gender studies, and then apply them to the analysis of actual art works of various genres (ex. opera, ballet, film, theater).

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze films and theatrical performances while taking into consideration their sociohistorical contexts.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments: 50%

Active Participation in class discussion: 20%

term paper: 30%

CUA200GA

国際関係研究Ⅳ

石森 大知

サブタイトル：家族と結婚の人類学

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅳ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、誕生から死ぬまでの間、つねに他者との関係を持ち続ける。あるいは、誕生前の生殖過程および死後の世界においても、人間は人びとを結ぶ関係の網の目に生きているといっても過言ではない。本授業では、とくに家族と結婚をキーワードとして、このような人と人をつなぎ合わせる社会関係およびそれを支える制度や組織について文化人類学的に考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに家族と結婚に関する基本的な理論や概念を習得する。
- ・ものごとを幅広い視野から捉えることによって得られる他者理解の洞察力に身に付ける。
- ・世界の多様な人間の在り方を学び、結婚・親子・家族とは何かについて相対的な視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	家族と親族①	核家族普遍説を問う
第3回	家族と親族②	キンドレッドと出自集団
第4回	家族と親族③	母系社会の暮らし
第5回	性と生殖①	民俗生殖理論
第6回	性と生殖②	親子の絆とは何か
第7回	生殖医療と親子関係①	生殖技術と現代社会
第8回	生殖医療と親子関係②	新しい家族の行方
第9回	結婚と社会関係①	インセスタブーの解釈
第10回	結婚と社会関係②	『親族の基本構造』を学ぶ
第11回	ライフサイクル①	子どもから大人へ
第12回	ライフサイクル②	老いることの意味
第13回	ライフサイクル③	この世からあの世へ
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や社会人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスンフィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。
クロード・レヴィ＝ストロース『親族の基本構造』福井和美訳、青弓社、2000年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回授業で教室定員を超過する履修者がいた場合、定員を超えて入室はできません。そのような事態が発生した場合に限り、入室できなかった履修者を対象に追って授業内容を動画で配信しますので、学習支援システムをご確認ください。
- ・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、家族と結婚について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

This course covers the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. We especially focus on the parent-child relations, kinship and marriage to understand social relations which connect people in everyday life. The goals of this course are to understand the contemporary meaning of kinship and social relations from anthropological perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOC200HA

現代社会論Ⅱ

佐伯 英子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会」は、多くの場合その構成員全ての経験や考えを平等に反映したものではありません。この歪みのひとつがジェンダーであり、社会を理解し議論する上で欠かすことのできない視点です。この授業では、家族、教育、労働、政治を含む社会の様々な側面をジェンダーの観点から検討します。学生一人一人が講義内容を理解するだけでなく、理論や概念を使って社会問題について議論することから主体的に学び、考える力を身につけることを目指します。

【到達目標】

本科目では、ジェンダーの規範が個人の経験や社会の構築に与える影響を、基本的な理論と概念、国内の歴史の変遷、諸外国との比較を通して探ります。日常生活や現代日本社会における制度、規範を多角的・多面的に分析することから新たな知見を獲得することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ジェンダーの視点で社会を分析する意義、本科目の進め方
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	性別と性差、ジェンダーの規範、家父長制、グラデーションとしての性
第3回	家族の歴史と現在	家族とジェンダー、異性愛規範、母性イデオロギー、婚姻制度
第4回	子ども	家庭において子どもは何を学び育つのか、社会化
第5回	学校教育、スポーツ	学校教育の歴史、機会の平等と結果の平等、顕在的カリキュラムと潜在的カリキュラム、スポーツとジェンダー
第6回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第7回	科学、知識、医療	科学史の中の女性、ジェンダー・イノベーション
第8回	賃金労働	少子化問題と労働問題、雇用体系、賃金格差、ワークライフバランス
第9回	リプロダクティブ・ライティ	生殖、性教育、セクシュアリティ
第10回	暴力	性犯罪と性暴力、法制度
第11回	表象と言葉	構築物としてのメディア
第12回	政治	民主主義、政治参画
第13回	フェミニズム	社会変革、持続可能な社会の構築
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。

【参考書】

伊藤公雄・牟田和恵編 2015 『ジェンダーで学ぶ社会学』世界思想社
千田有紀・中西祐子・青山薫 2013 『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain foundational knowledge and skills that enable them to examine various aspects of contemporary society (e.g., family, education, labor, and politics) from perspectives of gender.

【Course outline】

Lectures introduce historical changes and international comparisons, as well as theories. In addition to comprehending concepts and specific cases, students are required to complete assignments where they demonstrate their knowledge and ability to analyze social issues with gender perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SOC200HA

現代社会論Ⅲ

佐伯 英子

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

その他属性：〈他〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは「身体」や「生命」について理解を深めようとする際、しばしば医学や生物学等の自然科学に頼ろうとします。しかし、「健康」とは何か、性別や人種におけるカテゴリーはどのようにつくられるか、「美しい身体」や「正しい身体」という規範にどのような意味があるのか、生殖医療や臓器移植等の技術を通して私たちはどこまで「いのち」をコントロールすることができ、すべきなのか、といった問いには、社会科学的視点が欠かせません。それは、「身体」が極めて個人的な体験であると共に社会的、文化的、歴史的な要因に左右されるものであり、また、「生命」という概念の定義が社会や文化の文脈の中で作りだされるものだからです。

社会学は「常識」や「当たり前」を疑うことを可能にしますが、身体社会学はその醍醐味を特にダイレクトに感じることのできる領域であると言えます。受講者ひとりひとりが自分で社会を観察し、考え、議論することを通して、身体と医療の社会学の内容の理解と共に、社会学的想像力を身につけることのできる授業とすることを目指します。

【到達目標】

本科目では、一般的に自明なものであると考えられている「身体」及び「生命」を社会的観点から捉えることにより新しい知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体社会学という領域は近年、急速な発展を遂げましたが、一方でその蓄積や議論の多くは日本語に翻訳されていないため、多くの学生にとってアクセスの難しいものでもあります。講義では理論を含めたこのような流れを、画像や短い映像資料を使用しながらわかりやすく紹介し、理解を深めるための枠組みを作ります。小課題では、理解した内容を身近な例を使って自分の言葉で説明し、学びを深めます。また、課題提出後は、授業もしくは学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要とねらい、身体を社会的に分析する意義
第2回	身体社会学とは何か、階級と身体	労働、貧困、食、健康格差
第3回	人種	植民地主義、レイシズム、人種に関するカテゴリーの歴史的変遷
第4回	現代日本社会と人種	人種差別問題を自分たちの問題として考える
第5回	ジェンダー	「男らしさ」「女らしさ」と身体、身体の客体化、ステレオタイプ
第6回	ボディ・イメージ	身体の表象、「美」とされる姿の変遷、摂食障害、美容整形
第7回	セクシュアリティとジェンダーアイデンティティ	性自認と身体、異性愛規範

第8回	前半のまとめ、試験1	前半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う
第9回	「正しい」と考えられている身体とは何か、逸脱は何を意味するか	障がい、医療化、障がいの社会モデル
第10回	優生思想	優生政策、優生思想は過去のものか、日本におけるハンセン病の歴史
第11回	いのちの始まりと生命倫理	リプロダクティブ・ライツ、生殖補助医療
第12回	いのちの終わりとは生命倫理	終末期医療と尊厳死、脳死と臓器移植
第13回	身体と未来	機械と人間の融合、ナラティブを変える
第14回	後半のまとめ、試験2	後半の内容の理解度を試験し、フィードバックを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。各回に指定されたテキストを読んで授業に備え、授業の後は講義内容について復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いません。

【参考書】

安藤泰至、高橋都編『シリーズ生命倫理学 終末期医療』丸善出版(2012年)
 小松美彦・市野川容孝・田中智彦編『いのちの選択——今、考えた脳死・臓器移植』岩波書店(2010年)
 磯野真穂『なぜふつうに食べられないのか 拒食と過食の文化人類学』春秋社(2015年)
 谷本菜穂『美容整形と化粧の社会学—プラスチックな身体』新曜社(2008年)
 柘植あづみ『生殖技術—不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房(2012年)
 マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ—性、人種、階級、エイジング、健康/病の身体学への招待』(2017年)
 アリス・ドムラット・ドレガー『私たちの仲間 結合双生児と多様な身体の未来』緑風出版(2004年)
 毎日新聞『境界を生きる』取材班『境界を生きる 性と生のはざま』毎日新聞社(2013年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%; 課題 20%; 試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

前回に引き続き、リアクションペーパーや課題に書かれた考えや質問を共有しコメントすることから、受講者間や教員との対話的な要素を確保します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This course on Sociology of the Body and Medicine will examine sociocultural aspects of our knowledge and experiences on the body. By completing this course, students are expected to be able to identify social issues pertaining to the theme of this class in their everyday lives and analyze them critically using sociological perspectives.

【Course outline】

We will consider topics including social class, gender, race, eugenics, and bioethics. After each lecture, students are expected to reflect on the contents and outline their thoughts on their comment sheets.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation: 30%; Assignments 20%; Exams 50%

SSS300HA

災害政策論

中川 和之

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史時代から現代まで繰り返されてきた災害から多くの経験を学び、人々の悔しさに共感したうえで、これら災害経験に基づいて作られて来た災害政策を学び、その狙いと達成度を理解する。

そして、多くの学生たちが直面することになる南海トラフや首都直下の地震、スーパー台風の被災を最小限に留め、この日本で幸せに暮らすために必要な災害政策のあり方を共に考え、これから行政職員や教育者、企業人、社会人となるものとして、なすべきことを深く考える。

【到達目標】

①災害とは何かを、事例から学んで理解する。②現状の政策の背景と発展の経緯、残る課題を理解する。③今後の国・自治体の災害政策のあるべき姿を考える。④災害大国日本における当事者として、自らの専門性にどう生かすかを見出し、今後の社会での実践につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は豊富な映像記録などを使って、過去から現代までの災害の実像を紹介。災害対応と経験を踏まえて作られて来た災害政策・制度を、講師の実体験やインタビュー結果から深く学び、これまで得てきた常識を疑うことができる知識を身につけられるように進める。これらの学びを、毎回リアクションペーパーとして学習支援システムに記入する。次の授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーを振り返り、問題意識を共有して進める。1 回目の授業では、災害対策の悩ましさを理解するためのゲームを行い、その後も自ら考えるワークシートやグループディスカッションなども行って学びを深める。教室の対面でも密を避けるために Zoom も利用する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション。講師の自己紹介、この講義の狙い・概要の説明	災害とは何か？ 災害から守るべきこととは何か、なぜ災害政策が求められるのか、歴史も踏まえて概説。なぜ失敗が繰り返され、「想定外」という言葉で語られてしまうのか。講師からの問題意識を投げかけるとともに、最後に災害時に向き合うジレンマを実感する行政職員の実体験を元にしたゲーム「クロスロード」も体験し、社会での役割りに応じて災害に備えておくことの意義を考える。

第 2 回 自然現象と災害＝社会的な制度を考える前提としての理科 1

地球の 46 億年の歴史の中では新参者である日本列島。肥沃な大地と風光明媚な景観は、すべて過去の自然現象＝人がいたら災害と言われる現象によって形づくられている。私たちが、なぜ災害で被災をしてしまうのかを考える上で、災害をもたらす大地の働きのメカニズムが、どこまで分かって、何が分かっていないのかのベースを押さえる。学生諸君の出身地や身近な場所についての簡単なワークシート作成を課題とする。

第 3 回 身近な景観と災害＝理科 2

事前課題で取り組んできたワークシートを元に、それぞれ近い地域の学生同士で相互にプレゼンを行い、グループで語りあう。その場で、スマホや pad、PC などで調べながら、それぞれが身近な景観がどのような自然現象によって作られてきたかを考察。紹介したさまざまな地図からどのようなことが読み解けるかを知る。GW 期間中に取り組む、地元の土地の成り立ちを知るレポートの課題を出す。この課題は、最後のレポートにも必須となる。

第 4 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災前まで

日本の災害対策を大きく変えてきた関東大震災、伊勢湾台風、阪神大震災、東日本大震災とは、どのような災害だったのか、当時の映像などを豊富に紹介し、具体的なイメージを持つ。そして、その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。その後、教訓で作られた災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、なぜ、教訓が活かされていないかを考える。まず、関東大震災、伊勢湾台風と 1995 年の阪神大震災の直前までを取り上げる。

第 5 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝阪神大震災とその後

日本の災害対策を大きく変えた阪神大震災とはどんな災害だったのか。改めて当時の映像などを紹介し、起きたことを振り返る。その時にはどのような政策が実行され、何が課題とされたか。を考える。その後、東日本大震災直前まで積み重ねられてきた災害対策について確認する。

第 6 回 3つの大震災と伊勢湾台風＝東日本大震災

東北地方太平洋沖地震は、どうして東日本大震災という大災害になってしまったのか。すべてが「想定外」だったのか、どういう備えが足りずに被害が拡大したのかなどを振り返る。また、当時の自らの体験・行動を振り返り、共有をする時間も持つ。

第 7 回 東日本大震災後の災害政策の今＝これからの備え＝「己」がどこまで分かった政策なのかを考える

南海トラフの地震や想定首都直下地震、巨大化する台風など、今後経験させられる可能性がある自然災害が、政府や専門家がどう想定しているかを知る。東日本大震災後になって、基本法に不可欠な理念が加わった災害対策基本法の大改正など、災害の政策が、どのくらい浸透しているのかを確認し、まだ整理されていない課題は何か、災害を想定した私権制限はどこまで許容されるのかなどを考える。

<p>第 8 回 近年の火山噴火災害から、課題を考える</p>	<p>登山シーズンの日中という最悪のタイミングで極小規模な水蒸気噴火をした御嶽山、警戒していた地点と異なる場所から噴火して犠牲者を出した草津・本白根の噴火、観測史上初めての小規模な噴火が起きた箱根山、危険な火砕流が発生しながら避難しきった口之永良部島、噴火現象は起きなかったが大量のマグマが地表付近まで貫入した桜島。ここ数年の噴火災害に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。</p>	<p>第 13 回 災害と恵み・防災教育・ジオパーク</p>	<p>自然には恩恵と災害の二面性がある。恐怖の訴求だけでは、継続して災害への備えを続ける意欲を持ち続けるのは難しい。大地の変動を地域の人たちが語り継ぐ「ジオパーク」の活動が日本でも始まった。自分の地域が嫌いになったり考えたくなくなる脅しの防災の限界を見据え、防災教育やジオパークなどの活動の現状を知ること、危険性だけを強調するのではなく、この国の災害文化を背景にした、防災文化・減災文化の展望を考える。</p>
<p>第 9 回 近年の地震災害から、課題を考える</p>	<p>2019 年山形県沖地震、2018 年北海道胆振東部地震、大阪北部地震、2016 年熊本地震や 2016 年鳥取県中部地震など、近年の地震災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、2 度の震度 7 に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に具体的に考える。</p>	<p>第 14 回 試験レポート</p>	<p>「地域防災計画の課題発見」のレポートを元に、授業時間中に試験（レポート）を書いてもらう。これまでの授業資料やワークシートの持ち込みや、その場でスマホや PC、何でも持ち込んでも OK。</p>
<p>第 10 回 近年の風水害から、課題を考える</p>	<p>令和 2 年 7 月豪雨、2020 年 7 月豪雨や台風 10 号、2019 年台風 15 号や 19 号（東日本台風）、2018 年西日本豪雨や台風 21 号、2017 年九州北部豪雨や 2016 年台風 10 号、2015 年 9 月関東・東北豪雨などの豪雨災害・台風災害について、映像などで被害状況などを振り返りながら、洪水に立ち向かった首長たちから直接聞き取った経験談を共有し、政策課題について具体的に考える。</p>		<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習をし、次週のテーマを元に、関連する情報をインターネットや関連資料などを基に予習をすること。この授業を受ける以上、日ごろから災害に関連する情報やニュースに関心を持っておいて欲しい。期間中にあった災害についても授業内で取り上げていく。授業時間以外で、自らの出身地などの災害に関連したワークシートやレポートを、学習支援システムも活用して提出が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題レポートでは学生自身でのフィールドワークも推奨される。</p>
<p>第 11 回 災害報道・災害情報</p>	<p>かつて、災害情報と言えば、行政や専門機関が警報や避難情報を出し、それが人々に届きさえすれば良いと考えられていた。しかし、人々が適切な行動を取るためには、日ごろから情報の意味の理解が必要である。災害報道が、大ネタとしてのニュースを伝えるだけの役割からどう脱却するのか。SNS などの身近なメディアをどう活かすか自分事として考える。政府の災害被害を軽減する国民運動の一環として取り組まれている「TEAM 防災ジャパン」のサイトや、中央省庁や自治体がいざというときに情報を共有する新しいシステムの現状などについても学ぶ。</p>		<p>【テキスト（教科書）】 授業で使うプレゼン資料は、毎回の授業前、学習支援システムに掲載する。</p> <p>【参考書】 授業の中でも課題とするが、自らが住んでいる自治体や出身地の自治体の地域防災計画（その地域で地区防災計画があればそれも）は必須。内閣府の防災情報のページや被災自治体のホームページから学ぶものは多い。</p> <p>【成績評価の方法と基準】 平常評価（学習支援システムでのテスト・アンケートを使ったリাবেて授業内容の理解を評価）40%、授業中の課題ワークシート・レポート評価 20%、期末試験（試験レポート）評価 40%。</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 災害時のジレンマを実感するゲーム「クロスロード」を実施するほか、Zoom のブレイクアウトルームやチャットの活用でディスカッションの時間をもちたい。また毎回のリアクションペーパーを活用し、問題意識が共有できないまま進まないようにしたい。できるだけ、映像資料を豊富に使い、具体的に災害をイメージしてもらうことを意識する。</p> <p>【学生が準備すべき機器他】 オンライン参加の場合はパソコンが望ましい。講義室で参加する場合も、スマホを使うこともある。</p> <p>【その他の重要事項】 試験レポートの作成時には、時間内であればどのような資料を参考に書いても良い。</p>
<p>第 12 回 市民防災・ボランティア</p>	<p>この国で避けられない自然災害の前に、市民やボランティアの役割とは何か。地域のコーディネーターであるべき自治体の役割とは何か。自主防災組織の過去の経緯や現状を知り、ご近所の自治会町内会、マンション管理組合などの地縁組織の役割とは何をすべきか。自らの弱点を知り、助けを受け入れる受援力を鍵に、ボランティアについての歴史的経緯と現代、これからの役割もともに考える。</p>		

【実務経験のある教員による授業】

通信社記者として、1984年の長野県西部地震や1995年の阪神大震災などを取材。2005年から2011年まで主に自治体の防災施策を支援するメディアの「防災リスクマネジメント Web」編集長。取材していた災害救助法の制度見直しに、厚生省の関係委員会の委員として関与した以降、政府や自治体で災害法制度を見直すための委員会委員などを務め、災害対応に当たった市町村長らの悩みを聞き取って共有するお手伝いをするなど、災害政策の現場における課題解決に取り組む。現在は内閣府の「TEAM 防災ジャパン」のアドバイザー。子どもたちと地震や火山を学ぶワークキャンプを、地震学会として20世紀から実践。災害をもたらす大地の営みの恩恵も理解するプログラムのジオパークの審査員を10年以上担当。これらの経験を踏まえ、現実としての災害政策のあるべき姿を、受講者の学生と共に考えていきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

- 1.To learn about the major disaster of Japan,and sympathize with a victim of disaster.
- 2.To learn the disaster prevention and mitigation policy that was made based on past disaster experience from the past to the present,and understand its aim and achievement degree.
- 3.Many students will face the Nankai Trough Earthquake,and inland earthquakes such as the Tokyo metropolitan earthquake, and the super typhoons. College students, who will be government officials, teachers, business people, and households, will consider what disaster policies are needed to minimize the damage of future disasters.

【Learning Objectives】

1. Understand what a disaster is by learning from actual examples.
2. Understand the background and development of current policies and the remaining issues.
To think about the ideal form of national and local disaster policies in the future.
4. To discover how to apply their own expertise as a party in Japan, a disaster-prone country, and put it into practice in society in the future.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to review the materials introduced in each lecture and prepare for the next week's topic using the Internet and related materials. As you take this class, I would like you to be interested in information and news related to disasters on a daily basis. Disasters that occurred during this period will also be discussed in class. Outside of class time, students will be asked to submit worksheets and reports related to disasters in their respective regions using the learning support system. The estimated time for preparation and review for this class is 2 hours each. In addition, it is recommended that students conduct their own fieldwork for the assigned reports.

【Grading Criteria /Policy】

Normal evaluation (evaluation of understanding of class content through tests and reaction papers on the learning support system): 40%, worksheets and reports for in-class assignments: 20%, final exam (exam report): 40%.

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第 2 回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第 3 回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第 4 回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第 5 回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第 6 回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第 7 回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第 8 回	能力を高める②	仕事もたらす一皮むけた経験
第 9 回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第 10 回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第 11 回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第 12 回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第 13 回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第 14 回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002 年 PHP 新書
 守島基博 人材マネジメント入門 2004 年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %

授業内で実施するリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

zoom での授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports :10%

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。今、社会は大きく変化しています。「人生 100 年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、職業キャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病氣治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスライドについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』（中央経済社、2023 年 4 月出版予定）です。テキストに沿って授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅰ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 Smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 Stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 Newsなどを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPEN8 Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

- (i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
- (ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
- (iii) Be able to think and express their own views during group work.
- (iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

- (i) Attendance and participation in discussions 60%
- (ii) Mini-report 20%
- (iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論Ⅱ 展開科目

松本 真尚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材（大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など）の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ（課題）を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度（前期/後期）

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度（前期/後期）

・株式会社コーセー、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度（前期/後期）

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン・イレブン・ジャパン、ambie 株式会社 (ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社 (大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度（前期/後期）

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット（アントレプレナーシップ）を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2 回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ（課題）を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー（予定）
第 3 回	講義（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ（課題）の提供 1
第 4 回	グループワーク 1- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデアを共有する
第 5 回	グループワーク 1- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り（テーマ 1）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 7 回	講義（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 2
第 8 回	グループワーク 2- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク 2- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り（テーマ 2）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション）
第 11 回	講義（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ（課題）の提供 3
第 12 回	グループワーク 3- 1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク 3- 2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り（テーマ 3）	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する（プレゼンテーション） アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン（発表・資料）20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

【履修の条件】

- 1：自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2：自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3：Google アカウントを作ること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSE Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

- (i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
- (ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
- (iii) Be able to think and express their own views during group work.
- (iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

- (i) Attendance and participation in discussions 60%
- (ii) Mini-report 20%
- (iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうの困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場のリアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第 1 回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいこととは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2022 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2022 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。2022 年度実績は明治安田生命労組。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2022 年度実績は伊藤ハム労組。
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は安川電機労組。
7	【ケーススタディ④】男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。2022 年度実績は通建連合。
8	【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は自治労。
9	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。2022 年度実績は JAM。
10	【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応	進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50 %、レポートが 50 %。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。

履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 作文と論文の違い ビジネス文書作成 エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	ビジネスマナー 報連相の重要点 トラブル対処力 顧客満足向上とは
5	商社事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ベンチャー企業経営 株主重視経営 資金調達力
6	商社事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 グローバル企業経営 提案力の構造 世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 大学と仕事の関係 企業と個人の関係 コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 百年企業 最先端技術力 ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 大企業との差別化 商品企画力 プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 企業からの課題提示	市場調査 新商品開発（マーケティング） チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 米国公認会計士講話 採用担当者の視点 求められる人材像 状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ビジネスマナー ヒアリングスキル 課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 起業家行動の支援 全国ネットワークの活用 中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション 課題解決力 プレゼンテーション力 ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

- ・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
- ・毎回の小レポート（リアクションペーパー） ⇒ 30点
- ・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
- ・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000~2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことでした。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対応、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ 21世紀の生き方へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 学生日線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ （一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのことです。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

AGC300YA

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持つようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、スライドを印刷したプリントを毎回配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について

第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	交換の利益	経済学における交換の便益
3	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	貨幣の時間価値 3	年金、コンソル債の価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	複数状態を仮定した時の分散化
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	最終課題（テスト実施）	金融の役割、証券の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T 等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 1 もしくは 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』 (Pearson Education, 2021)

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か

第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルードンズ政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①：	金融市場概要 金融の機能
2	金融論 A の復習②：	金融仲介の機能 金融仲介機関
3	金融論 A の復習③：	不確実性とリスク 不確実性と市場
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	情報の非対称性、契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、FT等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第 2 版』（日本評論社、2016 年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
 井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
 井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

POL200CA
国際関係論 A
藤田 吾郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 A では、現代の国際政治のあり方を理解する上で必要不可欠となる、国際政治の歴史的展開および理論的概念について考察する。その際には、国際政治における中心的な争点である安全保障に主たる争点を当て、考察を進める。学生は、本講義を通じて、現代の国際政治を歴史的・理論的な文脈に引き付けて深く検討し、関心のある国際政治上の事象について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 国際政治の歴史的展開および理論的概念に関する知見を習得できること。
2. 本授業で習得した知見に基づいて、現代の国際政治上の諸問題について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業の狙い、授業の概要
第 2 回	国際政治の歴史的展開 I	主権国家体系の成立
第 3 回	国際政治の歴史的展開 II	ウィーン体制、第一次世界大戦の起源
第 4 回	国際政治の歴史的展開 III	国際連盟と集団安全保障体制、第二次世界大戦の起源
第 5 回	国際政治の歴史的展開 IV	冷戦期の国際政治
第 6 回	国際政治の捉え方 I	リアリズム、リベラリズム
第 7 回	国際政治の捉え方 II	従属論と世界システム論、コンストラクティヴィズム
第 8 回	国際政治の捉え方 III	交渉理論と戦争原因論
第 9 回	安全保障と同盟	同盟の起源、同盟のジレンマ、同盟と集団安全保障
第 10 回	安全保障と経済	相互依存論、覇権安定論、レジーム論
第 11 回	安全保障と外交	強制外交（抑止・強要）、安心供与外交
第 12 回	国際政治と国内政治	アリソン・モデル、二層ゲーム論、民主的平和論、観衆費用論
第 13 回	紛争と介入	平和維持、平和構築
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ 第 3 版』有斐閣、2023 年。定価 2,420 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17731-4（※ 2023 年 4 月上旬発売予定）

【参考書】

小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018 年。定価 2,530 円（本体 2,300 円）ISBN 978-4-641-15052-2
 多湖淳『戦争とは何か——国際政治学の挑戦』中央公論新社（中公新書）、2020 年。定価 880 円（本体 800 円）ISBN 978-4-12-102574-6
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN 978-4-641-05378-6

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course mainly focuses on the interstate relations regarding security issues, and explores historical backgrounds and theoretical conceptions.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of historical developments and theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

POL200CA
国際関係論 B
藤田 吾郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 B では、国際関係論 A の内容を踏まえた上で、戦後日本がいかなる外交を展開してきたのかについて、歴史的な視点から考察する。その際には、戦後日本の外交政策（および安全保障政策）を大きく規定してきた日米関係を中心に考察を進める。学生は、本講義を通じて、戦後日本外交の来歴についての知見を獲得するとともに、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 戦後日本がどのような外交を展開してきたのかについての知見を習得できること。
2. 本授業で身につけた知見に基づいて、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第 2 回	アジア・太平洋戦争	日中戦争、日独伊三国同盟、日米開戦
第 3 回	占領期 I	アジア・太平洋戦争の終結と日本占領の開始
第 4 回	占領期 II	占領政策の転換とその影響
第 5 回	占領期 III	講和・安保条約の締結
第 6 回	講和直後の日米関係	日本再軍備と米軍基地問題
第 7 回	極東の緊張緩和と日本の内政・外交	1955 年体制の成立、日ソ国交回復
第 8 回	日米関係の新展開	日米安全保障条約の改定と 60 年安保闘争
第 9 回	沖縄返還への道	対日講和と沖縄問題、佐藤政権と沖縄返還交渉
第 10 回	近隣諸国との関係回復の模索	日韓国交正常化、日中国交正常化、東南アジア外交
第 11 回	日米安全保障の多角化・深化	同盟の制度化、総合安全保障
第 12 回	冷戦終結期の日本外交	湾岸戦争と日本、自衛隊海外派遣問題
第 13 回	冷戦終焉後の日本外交	安保再定義、小泉外交
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

五百旗頭真編『戦後日本外交史 第 3 版補訂版』有斐閣、2014 年。定価 2,200 円（本体 2,000 円）（ISBN 978-4-641-22018-8）

【参考書】

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008 年。定価 2,640 円（本体 2,400 円） ISBN 978-4-64118357-5

添谷芳秀『日本の外交——「戦後」を読みとく』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2017 年。定価 1,100 円（本体 1,000 円） ISBN 978-4-480-09829-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】 本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with historical knowledge which is essential to understand current Japan's foreign relations. This course mainly focuses on the development of the U.S.-Japan relations, which has been a central framework of postwar Japan's foreign and security policies.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the history of postwar Japan's diplomacy
2. To acquire the ability to explain your opinion about desirable Japanese foreign policies logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

SES300CA
地球環境論 A
吉田 圭一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らすこの地球には実に多様な自然環境が見られ、私たちは複雑な自然環境の影響を受けながら、自然環境を利用して生活しています。授業では、こうした自然環境の複雑さや人と自然とのかわりについて、地理的な視点から解き明かしていきます。また、様々なスケールで自然環境を理解し、地球環境問題の解決の糸口を探るための知識や技術を学びます。

【到達目標】

身近なものから地球全体まで様々なスケールで展開する自然環境の諸事象について、その成因や形成過程を地理的な視点からとらえるとともに、自然環境と人間活動の相互依存関係について具体的に理解できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、地理学について紹介します。
2	自然地理学とはどんな学問か	自然地理学で扱う内容とその特徴について理解します。
3	生活の舞台としての地形（沖積平野、段丘・丘陵）	私たちの生活の舞台となっている沖積平野について具体的な事例をあげながら学び、私たちの暮らしに地形がどのようにかかわっているのかについて考えます。
4	第四紀の気候変動と地形形成	身近な地形形成にかかわる地球規模の気候変動について理解します。
5	災害を引き起こす地震・津波、火山	私たちの生活に大きな影響を及ぼす自然災害について理解します。
6	世界の気候とその成り立ち	地球規模の気候の成り立ちについて理解します。
7	身近な気候と人々の暮らし	気候に強く影響を受けている私たちの暮らしについて考えます。
8	気象災害	身近な自然災害である気象災害について理解し、防災を考えます。
9	地球環境問題－地球温暖化	地球規模の環境問題である温暖化について理解します。
10	生物群系と日本の植生	世界全体での生物分布を俯瞰し、日本の植生分布について理解します。
11	高山帯と森林限界の変化	高山帯について理解し、気候変化にともなう影響について考えます。
12	亜高山帯、低山帯、山地帯	私たちの生活にかかわる植生について理解します。

- 13 フィールドワークによる地域理解 身近な地域の自然環境と人間活動とのかわりについて理解するためのフィールドワークについて紹介します。
- 14 試験・まとめと解説 授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いる資料や理解度を確かめる課題は学習支援システムを通じて配布します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「みわたす・つなげる自然地理学」小野映介・吉田圭一郎編著（古今書院）2640 円

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, the complexity of the natural environment and the relationship between humans and nature will be explained through a geographical perspective.

Learning Objectives:

Students will learn knowledge and skills to understand the natural environment at various scales and to explore key solutions to global environmental issues.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

SES300CA
地球環境論 B
吉田 圭一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地で私たちが直面している自然環境に関する諸課題を解決するためには、地域の多様で複雑な「人と自然のかかわり」を多面的かつ総合的に理解する地理的なものの見方・考え方が必要不可欠です。この授業では、いくつかの具体的な事例を取り上げて人間と自然との関係についての理解を深め、身近な地域から地球全体におよぶ環境問題の解決に向けた地理学的なアプローチを学びます。

【到達目標】

人間と自然環境に関わる課題について地理学的なアプローチから総合的な理解ができるとともに、地球環境問題の解決方法について多面的に考え、自らの言葉で議論できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、総合科学としての地理学について紹介します。
2	地理的な見方・考え方による事象のとらえ方	人と自然のかかわりを理解するための地理的な見方・考え方を学びます。
3	持続可能な開発目標と地球的課題	私たちが直面する地球的課題について理解します。
4	小笠原諸島 - 自然破壊の歴史	小笠原諸島を題材に、孤島における自然破壊について考えます。
5	小笠原諸島 - 移入種と保全	小笠原諸島を題材に、移入種の問題とその解決方法について考えます。
6	琉球列島 - 宮古島の暮らし、自然との共生と開発	琉球列島のサンゴ礁を題材に、自然との共生のあり方について考えます。
7	ハワイ - 独自の自然環境と開発	ハワイを題材に、利用制限による自然保護の是非について考えます。
8	マレーシア - 熱帯林の保護	マレーシアを題材に、熱帯林減少の現状について学びます。
9	ブラジル (1) - ブラジルの発展と自然環境	ブラジルを題材に、開発による発展と自然環境の破壊との関連性について学びます。
10	ブラジル (2) - アマゾン熱帯林の破壊と保全	アマゾン熱帯雨林を題材に、熱帯雨林破壊の特徴とその保全策について考えます。
11	ブラジル (3) - 熱帯季節乾燥林のカーチンガと保全	熱帯季節乾燥林のカーチンガを題材に、見過ごされてきた自然破壊について学びます。

- 12 ブラジル (4) - パンタナールにおける人と自然
ブラジル・パンタナールを題材に、人と自然のかかわりを考慮した自然環境保全について考えます。
- 13 ボリビア・アンデス - 地球温暖化と氷河
ボリビア・アンデスを題材に、地球温暖化による人間社会への影響について学びます。
- 14 試験・まとめと解説
授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

ブラジルについては以下の書籍が参考になります。

「世界地誌シリーズ 6 ブラジル」丸山浩明編（朝倉書店）3,740 円
「みわたす・つなげる地誌学」上杉和央・小野映介編（古今書院）2,640 円
「新版 現代ブラジル事典」ブラジル日本商工会議所編（新評論）3,850 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへの登録をお願いします。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students understand more deeply the relationship between humans and nature by discussing several concrete examples.

Learning Objectives:

Students will learn the geographical approaches to address the environmental issues ranging from local areas to the global scale.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
 科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会学)
 配当年次/単位数：2～4 年次 / 2 単位
 備考(履修条件等)：旧「国際支援論」、旧々「国際福祉論」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返して触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第 10 回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出(平常点)：50%、課題提出(発表含む)：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器(パソコン、スマートフォン等含む)

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることが出来る
- ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
- NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること/他者に対して寛容であること/仲間を持つこと/社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容(歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等)について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知る。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPOの社会的意義について考える。
第4回	NPOの組織運営と他の社会資源との関係	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係について把握する。
第5回	関心分野におけるNPO活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状やNPO活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第6回	NPOの活動事例紹介1「ゼロカーボン、コンポスト等、持続可能な地域循環づくりの実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第7回	NPOの活動事例紹介2「スポーツやアートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第8回	NPOの活動事例紹介3「子どもを真ん中につながり、ともに生きる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。

第9回	NPOに関する自由研究 企画書の作成	個人又はグループ毎にNPOに関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第10回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズングや協力のテクノロジー等を取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究 発表会1	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究 発表会2	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点は何か、議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介したNPOの主催するイベントへ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点(出席・リアクション) 50点、(2) 中間レポート(NPO活動計画書) 10点、(3) 期末試験(自由研究企画書及び発表) 40点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
(注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
- ・授業内容の理解の助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

(注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンとwifiが必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline(in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to "To understand Social significance of Non Profit Organization".

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports: 10%, in class contribution: 50%

SOW300JB

災害支援論

青木 信夫、正谷 絵美、松井 正雄

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害が発生した後に余儀なくされる避難生活や生活再建などへの支援の在り方また、災害発生後の支援を効果的に行うために必要な事前の備えなどについて総合的に学び実践するための知識や技術を習得して、年々繰り返され巨大化する自然災害の被災者に必要な支援とは何か、支援のあるべき姿を探求していく。

【到達目標】

被災者に必要とされる支援や支援の方法について知り、実践的な支援のあり方について理解を深める。

・我が国における災害支援の体制を知り、日常生活でどのような備えが必要であるか考える。

・一方的な支援だけでなくお互いに支援し合えるコミュニティの形成と共助を通して人々が地域を支えて行くことの大切さを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義のほかに、グループ討議や図上演習を実施することで学生自身が考え、災害をイメージして支援のあり方について気づかせる。また、被災者と交わる支援のあり方として、体験型の授業を取り入れる。レポート等の提出、フィードバックはメールあるいは「学習支援システム」を通じて行い、最終授業では13回までの各講義内容のまとめやレポート等の講評、解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	①授業のオリエンテーション ②ワークショップ	・授業の概要や目的及び進め方、理解すべき点や評価方法等について知る。 ・災害支援のあり方について、グループ討議を行い被災者が本当に必要とする支援のあり方について知る。
2	体験学習 ・震動体験（起震車） ・煙避難体験（煙体験ハウス） ・初期消火（訓練用消火器）	・東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）の実際の地震観測データを基に3次元で再現された震動を体験する。 ・人体に無害な煙を充滿させたテント内に入り、火災時における煙の怖さと避難方法などを体験する。 ・初期消火の必要性を学び、消火器の操作手順を体験する。
3	気象災害と避難支援	・近年発生した大規模な気象災害を引き起こした気象条件、及び被害の現状と生活に及ぼす影響、支援などについて理解する。
4	ロープワーク ・結びの基本と応用	・日常生活では勿論のこと、災害発生時には人命救助や避難生活にも役立つロープの結び方の基本を体験する。
5	クロスロード	・災害発生後に行う支援のあり方について出された質問に YES または NO で答え、自分ならどのように対応するかを考える。
6	災害の種類と災害心理	・地震、津波、水害、火災など各災害の原因、特徴、対策と共に逃げ遅れの原因となる災害心理について学ぶ。 ・救命の重要性を理解する。
7	心肺蘇生法 ・胸骨圧迫／AED 操作 応急手当 ・止血法・災害時の手当	・心肺蘇生に必要な胸骨圧迫と AED 操作を体験し、実施手順を知る。 ・災害時の傷病者に対して身の回りにあるものを利用して一時的に施す手当の方法を知る。
8	防災講話 ・東日本大震災に学ぶ（大川小学校、釜石の奇跡）	・東日本大震災の教訓を学び、避難計画や避難行動のあり方について知り、避難に必要な支援とはなにかを考える。
9	災害ボランティアセンター実施訓練	・災害ボランティアセンターの仕組みを理解し、運営に必要な技術を実施訓練により習得する。

10	避難所 HUG	・避難所の開設、運営を模擬的に体験することにより、避難所で起こる様々な問題にどう対応するかまた、避難所で生活する被災者への支援をどのようにするかについて考える。
11	防災グッズの作成	・災害時に身の回りにあるものを利用して避難生活などに役立つ防災グッズを作成する。
12	防災講話 ・地域防災（自助、共助、公助）	・地域防災を、「自助」「共助」「公助」の視点から考え、平常時及び防災時の行動について考える。
13	図上演習 DIG	・災害発生後に行う、「避難行動要支援者」への支援のあり方と事前に必要な体制づくりについて考える。 ・各授業の要点をまとめ、レポート等の講評、質疑応答、ディスカッションを通して災害支援を掘り下げる。 ・本授業を終えた後の理解度を確認する。
14	①授業のまとめ ②春学期定期試験	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

災害支援に関する学問は、「災害支援学」などのように決められた枠組みの中だけに存在するのではなく、日常生活の中にこそ多くのヒントが潜在していることから、自身が日常生活を送る中で防災や減災とどう取り組んで行くべきか考えることが大切であり、人と交わることで多くの気づきを得ることができるので積極的に情報を得て人と共有するようにする。
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

授業時に参考となる資料を配布する。

【参考書】

授業内で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

春学期定期試験 50%、平常点 30%、レポート 20%

演習や体験型授業を行うので継続的な出席を求める。単位取得の前提条件となる出席回数については、オリエンテーション時（初回授業）に明示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、講師陣の防災啓発活動の現場や被災地での活動体験を基に、学生が災害の当事者として支援のあり方を自ら考え理解できるような内容に心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] Knowledge of how to provide comprehensive support for evacuation and rebuilding of life after a disaster occurs, as well as the necessary preparation for effective support after a disaster occurs. They will acquire skills and explore what kind of support is needed for victims of natural disasters that are repeated and huge every year.

[Learning Objectives] Learn about the support and support methods needed by disaster victims and deepen their understanding of practical support.

—Learn about the disaster support system in Japan and think about what kind of preparations are necessary in daily life.

—Learn the importance of people supporting the community not only through one-sided support but also through the formation and mutual assistance of communities that can support each other.

[Learning activities outside of classroom] The study of disaster relief does not exist only within a fixed framework such as "disaster support studies", but because many hints are latent in daily life, oneself has a lot of hints in daily life. It is important to think about how to tackle disaster prevention and mitigation while sending a message, and since you can get a lot of awareness by interacting with people, actively obtain information and share it with people. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy] Fall semester regular exam 50%, normal score 30%, report 20%

Since we will hold exercises and hands-on lessons, we request continuous attendance. The number of attendances, which is a prerequisite for earning credits, will be clearly stated at the time of orientation (first class).

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座 2017年度以降入学者

サブタイトル：

コーディネータ：渡辺昭太、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義テーマにより、講師が交代する場合があります。毎回リアクションペーパーを提出していただきます。講義内容に関する質問回答、試験問題についての解説なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性 ②人生とお金 ③大学生活とお金
2	お金と経済	①お金と経済の関係 ②景気・物価・金利の関係 ③金利と外国為替
3	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐ ②職業選択 ③額面収入と手取り収入 ④海外で働く
4	生活に関わる税金	①税金の種類 ②収入に関する税金 ③日々の生活に関する税金 ④その他の税金
5	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
6	ライフプランを描く②	①PL、BS、CF ②キャッシュフロー表の作り方 ③キャッシュフロー表の分析
7	お金を借りる①（クレジットカード）	①お金を借りる方法 ②多様化する決済 ③外貨の仕組み ④外貨の上手な使い方
8	お金を借りる②（ローン、リース）	①ローン ②分割払い ③リース ④多重債務の予防
9	お金をふやす①（投資）	①お金を増やす方法 ②貯蓄について ③投資について ④投資のリスクコントロール

10	お金をふやす② (NISAとiDeCo)	①NISA ②iDeCo
11	リスクに備える①（生保、年金）	①生活におけるリスク ②私的保険の基礎知識 ③身体・健康のリスクに備える
12	リスクに備える②（損害保険）	①身の回りのリスク ②損害保険について
13	トラブルに強くなる	①消費者トラブルの現状 ②消費者を守る制度 ③トラブルに遭わないために
14	ライフプランを描く③ 総括	①ライフプランを作る ②ライフプランの見直し方法、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習時間は、各2時間程度を想定します。配布資料およびweb上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

資料については講義サイトに投稿予定です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト1回（30%）および最終テストまたはレポート（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2023年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

受講者人数や状況にもよりますが、学生同士のディスカッション等ができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】

In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have "Financial Literacy" including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions. By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student

- ・ To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management

- ・ To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.

This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.

【Learning Objectives】

a) Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.

b) Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review.

Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary

【Grading Criteria /Policy】

The score is calculated based on three subjects.

a) Attendance report contribute 20%

b) Mini exam contributes 20% (few times during the course)

c) Culminating report 60%

Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身につけ、生活の上で、金融のリテラシーを身につけることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身につけるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。

ただし、金融は奥が深く、春学期の授業はその入り口に立ったに過ぎない、さらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

感染がおちついてきたので対面による授業として実施する。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分がある。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためである。また、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第 1 章、第 2 章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第 3 章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ

7	債券投資の理論（第 10 章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第 10 章） 続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第 1 講から第 8 講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第 11 章）とポートフォリオ理論（第 12 章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポートフォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第 12 章と第 13 章）	2 資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させ CAPM について学習する
12	コーポレートファイナンス①（第 7 章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第 7 章）	企業の資金調達におけるモジリアニニミラーの定理（MM 理論）を学習する。
14	期末試験	Hoppi 上でこれまで学習した範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見ただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30 分でも日々の生活で経済事象を知ることが、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20 %）、2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズは Hoppi 上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算 20 余年有している。うち、10 年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は主として金融の「入門レベル（経済学 LA）」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に付けてほしい。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいるだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。秋学期の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、記事の内容が概ね理解できることを目標とした。経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学 LA）を経て、金融基礎知識を固める初級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面で授業を実施する。ただし、感染状況によりオンライン（オンデマンド）で実施する場合もある。対面授業ではあるが、履修生の皆さんには資料を Hoppii 経由で配信し授業で教科書とともに使用する予定である。ファイナンスは自分で理解する上で問題を解くことが重要である。そこで、授業内容により学習後にクイズ（試験ではない）を行い、理解を深めるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利率率、将来価値、現在価値（第 1 章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
2	債券入門（第 2 章）、債券分析の基礎（第 3 章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学 LA の復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第 3 章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第 8 章）	経済学 LA においてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で 2 つの危険資産によるポートフォリオを作成する。

5	ポートフォリオ理論入門②（第 8 章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPM の導出を行う。（一部経済学 LA の復習あり）
6	株式入門（第 4 章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第 4 章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60 分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	先物入門（第 5 章）	先物取引の仕組みと裁定取引を学習する。
11	オプション入門①（第 6 章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第 6 章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第 11 章）	市場モデルと CAPM の類似点と相違点を整理する。市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第 1 回から第 13 回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60 分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すことで理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】

手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5

大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。

- 1、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %）、
 - 2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、
 - 3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
- 中間試験と期末試験は原則教室で実施する予定であるが、感染状況により Hoppii 上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。

成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

経済学 LB(秋学期)は経済学 LA 同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等は Hoppii 上に掲示（授業開始から 1 週間のみダウンロード可）する予定である。昨年度は、経済学 LA の未履修者対応として復習の部分にウエイトを掛け過ぎたため、今年度は振り返り部分のウエイトを軽減することとし、経済学 LA の未修者は自学自習により対応を促すこととしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験においてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】

配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算 20 余年有している。うち、10 年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了 (MBA) している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recommend you to acquire a financial literacy for your life.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 大気鉛直構造と運動	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。 更に今後の講義に必要となる大気鉛直構造と大規模な大気の運動について解説する。

2	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
3	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1（ヒートアイランドI）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変2（ヒートアイランドII）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	東日本大震災と自然環境問題 まとめ	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著. インデックス・コミュニケーションズ
- ・成層圏オゾンが生物を守る. 関口理郎著. 成山堂
- ・ここまでわかった「黄砂」の正体. 三上正男著. 五月書房
- ・ヒートアイランドと都市緑化. 山口隆子著. 成山堂
- ・カルスト-その環境と人々とのかかわり. 漆原和子編. 大明堂
- ・新百万人の天気教室. 白木正規著. 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連するため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講生全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表されたIPCC第6次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、3年前に日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象 吉野正敏著 成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著 古今書院
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－ 日本気象学会 地球環境問題委員会編 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や天気など用いて分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation : 20%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践

8	バラスポーツ ・ポッチャ	・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニュースポーツ理論と実践

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケボール	・バスケボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ポッチャ	・パラスポーツの理解を深める ・ポッチャの理論と実習
9	ニュースポーツ（室内 競技） ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】**
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ (講義)
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる (講義および実習)
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる (講義及び実習)
4	ニュースポーツの実践 (インディアカ)	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)

5	ニュースポーツの実践 (ユニホック)	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める (講義)
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義および実習)
8	運動学習の方略 (注意の焦点)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義及び実習)
9	運動学習の方略 (フィードバック法)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる (講義及び実習)
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ (講義)
11	プレッシャーとスポーツ (実践)	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面 (プレッシャーのかかる場面) でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する (講義及び実習)
12	プレッシャーとスポーツ (基礎理論)	「プレッシャーとスポーツ (実践)」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ (講義及び実習)
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ (講義)
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ（講義）
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる（講義および実習）
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる（講義及び実習）
4	ニュースポーツの実践（インディアカ）	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）

5	ニュースポーツの実践（ユニホック）	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義）
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義および実習）
8	運動学習の方略（注意の焦点）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義及び実習）
9	運動学習の方略（フィードバック法）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる（講義及び実習）
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ（講義）
11	プレッシャーとスポーツ（実践）	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面（プレッシャーのかかる場面）でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
12	プレッシャーとスポーツ（基礎理論）	「プレッシャーとスポーツ（実践）」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ（講義）
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール

4	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	実技 ：バレーボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの基本的技術とルール
11	実技 ：バレーボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの応用的技術とルール
12	実技：その他の種目	ストレッチ・体操 (フィットネス) ドッチボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題 (少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など) や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目標とする。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール

5	健康とは?	WHO の健康の概念 JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ 医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術
11	実技 ：フットサル②	3vs3 実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール
12	実技 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操 (フィットネス) ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング	骨格筋の量・質の変化 トレーニング適応 コンディショニング
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて用いて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨガと呼吸 (講義および実習)	ヨガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨガと健康 (講義および実習)	ヨガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。毎回の講義で使用するレジюме及び資料などについて必ず予習・復習をすること。レジюме及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨガ根本経典．平河出版社，1986
佐保田鶴治．ヨガ根本経典 (続)．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %

3) 授業への参画状況 20 %

- ・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 - ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
- またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのがましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン (zoom) を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

- 2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気の関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術（姿勢、基本ストライドなど）を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学（考え方）を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation（瞑想）について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。

3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー（基本のポーズ）の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの起源について概説し、アーサナー（基本のポーズ）と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨーガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治、ヨーガ根本経典、平河出版社、1986

佐保田鶴治. ヨーガ根本経典（続）. 平河出版社, 1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。
それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～1 8 時 30 分の 100 分を設ける。
形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。
オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向 (歴史) やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて (講義)	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得 (実習&講義)	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得 (実習&講義)	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得 (実習&講義)	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方 (実習&講義)	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて (実習&講義)	コートでの位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割 (実習&講義)	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術 (三段攻撃使用)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (三段攻撃を用いる) を立ててゲームを行う。
第 10 回	集団的技術 (レシーブのフォーメーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (レシーブのフォーメーション) を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術 (チームコミュニケーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (チームコミュニケーション) を立ててゲームを行う。

第 13 回 集団的技術 (総合)・ゲーム (実習&講義) チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。

第 14 回 授業総括と筆記試験 授業の総括を行った後、筆記試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (60 %) を主な基準として、筆記試験 (40%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ (アウトドア) バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めることで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業 (スポーツ科学 B) は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	ビーチバレーのルールについて (講義)	ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本技術を復習する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用 (実習 & 講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術 (レセプション戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (レセプション) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術 (トスアップ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (トスアップ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術 (ディグ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ディグ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術 (スパイク戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (スパイク) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術 (ブロック戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ブロック) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 13 回	集団的技術 (総合的)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (70%) を主な基準として、レポート (30%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法（講義）
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係（講義及び実習）
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント（講義及び実習）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）

9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物：90 %

・最終授業時に課すレポート課題：10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10 回出席）以上に満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階柔道場の予定です。
3. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進 (講義)
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ (講義)
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ (講義)
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定 (講義及び実習)
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)

9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物 90 %

・最終授業時に課すレポート課題 10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3 (10 回出席) 以上に満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。
- ④就業力 (信頼関係構築や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず 2 年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。春学期スポーツ科学 A は基本的な内容を学習する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技 (バスケットボール)	チームワークについての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技 (卓球)	体力についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技 (筋力トレーニング)	筋力トレーニングの基本についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技 (バドミントン)	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技 (フライングディスク)	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義
11	講義及び実技 (フットサル)	エネルギー (栄養・水分) の補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技 (バスケットボール)	健康と休養 (睡眠) の重要性についての講義及びバスケットボールの実践 レポート課題の提示
13	講義及び実技 (ストレッチング及びバランス運動)	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
 - ②課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力（信頼関係や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

秋学期のスポーツ科学 B は春学期のスポーツ科学 A と比べ、レベルアップさせた内容となります。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技（ソフトバレーボール）	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技（バスケットボール）	チームワークの重要性についての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技（卓球）	体力についての講義及び卓球の実践
6	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングの基本理論についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技（バドミントン）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技（フライングディスク）	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
11	講義及び実技（フットサル）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	健康と休養（睡眠）の重要性についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括 レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本の中学・高等学校における体育授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、

2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同じような授業内容・授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. To acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

